

世界作業療法士連盟
WORLD FEDERATION OF
OCCUPATIONAL THERAPISTS

作業療法士教育の最低基準 2002 年改訂版
*REVISED MINIMUM STANDARDS FOR THE EDUCATION OF
OCCUPATIONAL THERAPISTS 2002*

教育プログラムの認定手続
*PROCESS FOR APPROVAL OF
EDUCATIONAL PROGRAMMES*

新たな作業療法士教育プログラム
設置のための勧告
*ADVICE FOR THE ESTABLISHMENT OF
A NEW PROGRAMME FOR THE EDUCATION OF
OCCUPATIONAL THERAPISTS*

社団法人日本作業療法士協会・訳
2006 年 3 月

訳出にあたって

本書は世界作業療法士連盟 (WFOT) の「作業療法士教育の最低基準 2002 改訂版 (REVISED MINIMUM STANDARDS FOR THE EDUCATION OF OCCUPATIONAL THERAPISTS 2002)」, および 2004 年に公表された「教育プログラムの認定手続 (PROCESS FOR APPROVAL OF EDUCATIONAL PROGRAMMES)」「新たな作業療法士教育プログラム設置のための勧告 (ADVICE FOR THE ESTABLISHMENT OF A NEW PROGRAMME FOR THE EDUCATION OF OCCUPATIONAL THERAPISTS)」の訳を合冊したものである。

日本作業療法士協会では WFOT 基準を参考に、既に独自の教育基準「作業療法士教育の最低基準」を 2003 年に作成しており、WFOT 認定校の審査もそれに基づき実施されているところである。このたび世界の作業療法士教育水準に関する会員の理解を深める一助になることを願い、ここに訳出した。「作業療法士教育の最低基準 2002 改訂版」の訳出は山田孝氏（首都大学東京）、「教育プログラムの認定手続」および「新たな作業療法士教育プログラム設置のための勧告」の訳出は永井洋一氏（新潟医療福祉大学）の力によるところが大きい。全体の用語のチェックも永井氏を中心となっていました。感謝いたします。

なお、訳出にあたっては文脈に沿った用語の使用を心がけた。同様の意味合いと思われる qualification, および approval は「認定」に統一した。Programme は「教育課程」もしくは「養成施設」と訳せるが、あえてカタカナ標記とした。文脈に合わせて読み取っていただきたい。

2006 年 3 月

社団法人日本作業療法士協会教育部部長 陣内大輔
教育部養成教育委員会委員長 池田 望
教育部養成教育委員会教育水準担当 永井洋一
木下浩也
三崎一彦
吉田雅紀

**作業療法士教育の最低基準
2002 改訂版**

*REVISED MINIMUM STANDARDS FOR THE
EDUCATION OF
OCCUPATIONAL THERAPISTS
2002*

制作

クレア・ホッキング(Clare Hocking): ニュージーランド代表
ニルス・エリック・ネス(Nils Erik Ness): ノルウェー第1代理

より詳細な情報は以下のサイトから入手可能である

wfot@multiline.com.au

著作権声明

世界作業療法士連盟は、この資料の出版、伝達、修正、商業化、変更に関する一切のライセンスを認めない。このWFOTが著作権を持つ資料を複製したり利用するには、必ず事務局を通じて WFOT本部の許可を得なければならない。許可を得て、全体もしくは部分を複製したり引用する場合には、当資料の著作権者の氏名と権利を明記することが義務づけられる。WFOT著作権資料の複製や使用の許可は、明確に許可されたもの以外は、出版という形をとることができない。

詳しい情報をご希望の方は、こちらまでご連絡下さい

WFOT Secretariat

PO Box 30

Forrestfield

West Australia 6058

Australia

Fax: 61 8 9453 9746

Email: wfot@multiline.com.au

HP アドレス

<http://www.wfot.org>

<http://www.wfot.com>

世界作業療法士連盟理事会 1958 年出版

1963 年 改訂・増刷

1971 年 改訂・増刷

1985 年 改訂・増刷

1990 年 改訂・増刷

1993 年 改訂・増刷

1998 年 増刷

2002 年 改訂

著作権 2002 年 世界作業療法士連盟

目 次

第一部：序文と背景

本基準の目的

社会活動

専門性

教育

WFOT 内部でのこの基準の目的

最低基準小史

改訂の過程

保健専門職教育の国際的背景

保健・福祉の観点

国際的教育の観点

影響を受けた作業療法教育文書

第二部 作業療法教育プログラム

概要

国際的な保健、福祉、教育の観点

作業療法教育プログラムの地域的環境

プログラムの哲学および目的

教育プログラムの構成要素

有能な実践のために不可欠な知識、技能および態度

卒業生の実践に関するフィードバック

作業療法教育プログラムの地域的文脈

プログラムに入学する学生

地域の保健・福祉ニーズ

地域の保健、福祉、障害および法律制度

地域で健康をもたらす作業

地域の作業療法史

有能な実践のために不可欠な知識、技能、態度

人間-作業-環境関係および健康との関係

治療と専門性の関係

作業療法プロセス

専門的リースニングと行動

専門的実践の文脈

第三部：作業療法士教育の最低基準

哲学と目的

カリキュラムの内容と順序

教育方法

臨床実習

教育施設と資源(資金提供を含む)

教育者

学生関連事項

第4部：WFOT の教育プログラムの承認

初回の認定

WFOT 最低基準に対する継続的モニタリング

付録

付録1：文献

付録2：用語集

付録3：作業療法士教育の改訂版最低基準の第1草案作成へご協力頂いた方々

付録4：作業療法士教育の改訂版最低基準の第1草案への財政支援を頂いた方々

付録5：作業療法士教育の改訂版最低基準の第1草案に対してご意見を戴いた方々

付録6：作業療法士教育の改訂版最低基準の第1草案に寄せられたご意見

序 文

この「作業療法士教育の最低基準」は、1952年に最初に作成されたもので、作業療法実践の国際的な首尾一貫性と凝集性、および、国際的な作業療法認定の根拠をもたらすものである。この基準は、作業療法教育プログラムが世界作業療法士連盟(WFOT)から認められるために持たなければならない不可欠な事項を説明している。作業療法教育の最低基準を設けたことは、世界中の作業療法士が同じ技術、知識および実際の手段を持つという環境を維持する上で役立っている。これによって、作業療法に国際的な同一性をもたらし、作業療法認定の国際的承認を促進することができる。

1998年に、世界作業療法士連盟は、「作業療法士教育の最低基準」を見直すプロジェクトを発足させた。この基準は、作業療法教育プログラムの内容、プロセスおよび説明責任のメカニズムの極めて重要な側面を規定するものである。さらに、この基準は、各国の作業療法協会が作成している認定プロセスの基礎を形成し、登録している当局のために外国人作業療法士の資格要件を考慮する上での基準をもたらすはずである。

ニュージーランドのクレア・ホッキングとノルウェーのニルス・エリック・ネスは、過去3年間にわたって、この「作業療法士教育の最低基準」を改訂するプロジェクトに対して、精力的に働いてきた。クレアとニルスは、この大きな意味を持つプロジェクトに率先して革新的なアプローチをとってきた。彼らは、全く新しいアプローチを念頭において、南北アメリカ、ヨーロッパ、太平洋、アフリカおよび中東といった各地域の重要な作業療法教育者、研究者およびリーダーにアドバイスを求めた。彼らはまた、保健専門職教育がその卒業生が各地域の保健ニーズを満たすために準備しておかなければならないという前提を支持するために、世界保健機関(WHO)とユネスコ(UNESCO)の国際文書を参照した。彼らは、国際的に理解されるであろう作業に焦点を合わせた用語を提供するために、この改訂のプロセスで、WHO国際障害分類(ICD-IDH)を最新の改訂に用いている(現在は、ICF(WHO新国際障害分類)になった)。

世界作業療法士連盟は、教育プログラム、各協会、およびその他の利害関係者が本基準を実効性のあるものにするために、本基準に関するフィードバックを歓迎する。フィードバックはWFOT事務局を通じて教育研究プログラム委員会に送付される。

*WFOT Secretariat
PO Box 30 Forrestfield, West Australia 6058
Australia
Fax: 61 8 9453 9746
e-mail: wfot@multiline.com.au Web: <http://www.wfot.org>, <http://www.wfot.com>*

2002年11月
世界作業療法士連盟 会長 Kit Sinclair (キット・シンクレア)

第1部：はじめに

本基準の目的

「2002年改訂版・作業療法士教育の最低基準」では、異なるが相互に関係をもつ4つの目的に取り組んでいる。それらは、社会的目的、専門職的目的、教育的目的、およびWFOTの会員資格の目的である。

社会活動

「作業療法士教育の最低基準」の持つ社会的目的は、以下のとおりである。

- ・作業療法をより明瞭なものにすることで、人々の健康と福祉に対する作業療法の貢献が国際レベルでも、国内レベルでも、認識されること
- ・質の高い健康と福祉サービスを求める社会の期待を満たすこと

これらの目的は、作業療法がサービスを提供する社会の変化しつつある環境条件に取り組むために、作業療法教育が絶えず最新のものに改訂され、地方や全国といったレベルの違いが、その地域のプログラムの中で認識されることを求めている。

専門性

この最低基準の専門職的目的是、作業療法実践の国際的な首尾一貫性と質を促進することである。これには以下のような多くの側面がある。

- ・作業療法教育の共通理解、経験および用語を促進することで、作業療法士の国際コミュニティーを強化すること
- ・作業、作業療法教育および作業療法実践に関する国際的研究を育成すること
- ・作業療法がまだ確立されていない国々における作業療法の発展を支援すること
- ・プログラム間の知識、教職員および学生の国際交流を促進すること
- ・有資格作業療法士の国際的移動を促進すること

教育

この最低基準の教育的目的是以下のとおりである。

- ・WFOTの認定を得られるような新たな教育プログラム計画のガイドを示す。
- ・高等教育機関に設置された作業療法教育プログラムを支援する。
- ・既存のプログラムがこの最低基準を十分に満たし続けているかどうかをモニターするための基準を提供する。
- ・自己評価とピアレビューのプロセスを通じて、既存の教育プログラムの継続的な質の向上を奨励する。
- ・情報技術や通信技術を用いて、最新の理論と研究知見にアクセスし、その価値を評価することに熟練した卒業生を輩出する。

- ・生涯学習に対する卒業生の関与をうながす.
- ・より高等の教育に進める学力を持つ卒業生を輩出する.

WFOT 内部でのこの基準の目的

WFOT の「作業療法士教育の最低基準」を満たしていると認定された教育プログラムがあることが、世界作業療法士連盟 (WFOT) への加盟申請をしようとする国の必要条件である。正会員としての WFOT 加盟申請方法に関する情報については、WFOT 事務局の wfot@multiline.com.au を参照されたい。

最低基準小史

世界作業療法士連盟「作業療法士教育の最低基準」の歴史は 50 年におよぶ。専門性の発展のために国際的に受け入れられる教育基準の重要性が認識される中で、1952 年に、「作業療法士教育の最低基準」の概説を示した文書が作成された。この文書は、1954 年に連盟理事会に承認された。作業療法が未確立の国々におけるプログラム開発の指標として、1958 年には「作業療法士教育プログラムの制定」と名づけられた関係文書が出版された。1963 年に修正された後に、1966 年に「作業療法士の教育」として出版された。

医療実践での変化に対応するために、1971 年には、さらに検討がなされ、「作業療法士教育最低基準の勧告」が刊行された。作業療法の専門用語と技術の変化を反映し、かつカリキュラム開発のためのより良好な手引きとするために、1984 年に、改訂が追加された。この時点で、この文書は、作業療法教育プログラムの一般的な要件と構成と、カリキュラム内容とを概説したものへと 2 つの部分に分割された。臨床実習の仕様書も、付録として概説された。

1991 年版の最低基準は、1984 年の文書の構成を保ってはいたものの、それほど規範的ではなかった。その最低基準は、WFOT 加盟国そのための 5 年毎のプログラム・モニタリング結果の報告書の様式と、WFOT への作業療法教育プログラムの認定申請書の様式を含んだものへと拡張された。

最新の改訂は 2 種類の要請に応じて着手された。第 1 は、作業療法教育を確立したい国々からのもので、教育プログラムを開発する方法とプログラムのモニタリングに取り組む方法に関するより明確な指導を求めるものであった。第 2 は、カリキュラムの内容におけるいっそうの柔軟性と、臨床実習の必要条件をもっとゆるめて欲しいという認識されたニーズを中心とした最低基準の改訂を求める要求であった。

改訂の過程

既存の最低基準の改訂は、カナダのオタワ市での 1998 年の理事会で、WFOT 教育委員会 (現・教育・研究プログラム領域) の優先事項と認められた。一連の重要な質問の最初の作成の後に、世界各地の作業療法の教育者、管理者、指導者たちが見解を寄せるよう募られた。この意図は、この段階で、作業療法がきちんと確立された国々と、作業療法を新たに展開しつつある国々を含む世界のすべての地域からの広範囲の意見を求ることだった。

貢献した人々は、プロジェクト・リーダーや WFOT 代表によって直接、あるいは、ディスカッション・グループに参加したり、個人的に電子メールを介して貢献するといったボランティアの募集によって、各国の協会を通じて集められた。付録 1 に記載された参加者リストを参照されたい。これらのボランティアの質問は、以下の事項に取り組むものであった。

- ・最低基準はまだ必要なものなのか、また適切なものなのか.
- ・この基準が地域の問題だけでなく、作業療法の中核的な関心事にどのように取り組むことができるか.
- ・この基準はカリキュラムの内容、構造、および臨床実習の時間を規定するべきか.
- ・ここに含まれなければならない作業療法の中核的概念はあるのか.
- ・作業療法学生が全員持つ必要のある重要な経験というものがあるのか.
- ・作業療法教育の成果をどのように記述し、評価すべきか.
- ・この基準は、作業療法教育の基準をできるだけ高く維持するのと同時に、専門職の発展をもたらすように十分に柔軟なものになりえるか.
- ・この基準は、新しいプログラムの確立を導くためのアドバイスを含むべきか、また、何を含めたら良いのか.
- ・作業療法教育の入門レベルはどうあるべきか.
- ・作業療法教育プログラムの長や管理者は、どんな資格を持つべきか.
- ・回答者は、「作業療法士教育の最低基準」改訂版の開発を支援しうるその他の文書を知っていたか.

これらの反応は、既存の最低基準との関連で取り上げられた問題に取り組んでいるように思われた一般合意と考え方の領域を明らかにするために、詳細に検討された。このアドバイスの主要な推進力は、最低基準を持つことは、特に新しいプログラムにとって重要であると考えられるという点であった。しかし、もたらされたアドバイスは、この基準が各国・地域の健康や福祉のニーズの相違を認めるように、もっと柔軟性を持つ必要があるということだった。最近の進歩、特に、作業療法の中核的知識基盤としての作業を強調することを取り入れるために、最低基準を改訂する必要があるという点で、全員一致の合意が得られた。また、既存の最低基準に含まれたカリキュラム内容の仕様のレベルに対するニーズは疑問視された。その代わりに、この基準が卒業生の成果に取り組むというアドバイスがもたらされた。

既存の最低基準に含まれていた臨床実習 1,000 時間という仕様を保持すべきかどうか、また、作業療法教育プログラムの長が作業療法士である必要があるかどうかに関しては、回答者には意見の不一致があった。

改訂最低基準の初稿は、プロジェクト・リーダーたちの 1 週間にわたる集中会議で作成された。このミーティングは、WFOT、ニュージーランドのオークランド工科大学作業療法学科、およびノルウェーのセール・トロンデラーグ大学作業療法学科の経済的支援を受けて実施された。この改訂は、寄せられたアドバイスを重視して書き上げられた。

2001 年のヨーロッパ高等教育機関作業療法ネットワーク (ENOTHE) 会議では、提案された新基準の方向性と構成に関する迅速なフィードバックが求められた。初稿は、2001 年 12 月に完成した時点で、WFOT のウェブサイトにアップロードされた。フランス語とスペイン語への翻訳版も完成と同時に追加された。WFOT 会員の全ての協会、WFOT 代表と代理、および、WFOT 認定の作業療法士教育プログラムの関係者全員に、初稿がアップロードされ、フィードバックが募集されていることを通知した。同時に、WFOT メンバーの各協会と各教育プログラムに、改訂基準の作成に対する経済支援が依頼された。付録 2 に受領した寄付金のリストを示してある。

初稿に対するフィードバックは、31 の協会、18 か国のグループや個人から寄せられた。フィードバックを寄せた団体と個人のリストは付録 3 に示してある。フィードバックは、初稿を強く支持するものであった。初稿の方向性と構成に対する支持意見からの抜粋を付録 4 に示しておく。フィードバックはさらに、最低基準のいっそうの改訂に対するきわめて貴重な提案も寄せられた。この基準の焦点である作業に関する合意、および、教育プログラムのデザインに対する地域的環境の影響に関する合意、および、卒業生に求める知識・技能・態度に対する認識に関する合意が得られた。

基準改訂版の最終稿は、プロジェクト・リーダーたちの 1 週間にわたる再度の会議で作成された。特にフィードバックに対応してなされた改訂は、哲学と目的の文章の展開、最低基準を持つ目的の

いっそうの明確化、および、健康と福祉に対する国際的観点の影響の認識であった。

最低基準の 2002 年改訂版の最終稿は、2002 年 6 月にスウェーデンで開催された W F O T 理事会に提案され、2002 年 6 月 19 日に採択された。

健康専門職教育の国際的文脈

基準改訂版の作成のために、国際的な文脈を提供し、その作成の方向性を導く多くの文書が参考にされた。

保健・福祉の観点

アルマ・アタ宣言とオタワ憲章：「W F O T 作業療法士教育の最低基準」に関連するこれらの文書の重要性は、健康に対する社会の展望であり、また、健康の専門職が健康サービスを、健康の追求に向かた臨床的・治療的服务の提供を越えた新しい方向へと向くよう求めたことにある。したがって、この基準は、教育のプログラムが良好な状態を支援する方法で人々が作業を選び遂行する個人的な技能を開発するよう援助することによって、良好な状態を増強する作業の潜在的能力のみならず、健康なコミュニティーを構築する作業の潜在的能力に取り組むことを含むように書かれている。

国連のさまざまな文書は、個人の健康に対する医学的な見方から、すべての人々のための健康という見方および健康と福祉の問題に対する開発的アプローチへの転換を強調するという点で、影響力があった。こうした展望からすれば、健康は医学的用語で計られるだけではない。健康はまた、社会的心理的次元も持ち、また、人種、性、肌の色、言語、政治的志向性、その他の個人的要因にかかわらず、すべての人々が達成しうるべきものと認識されている。1982 年の「障害者に関する世界行動計画」および 1993 年の「障害者の機会均等化の標準規則に関する解決」は、地域開発および健康増進に取り組んでおり、障害者の機会均等化の戦略と社会的経済的生活のすべての側面における障害者の完全参加の達成を提案している。さらに、2002 年の「子どもの権利条約」は、子どもの武力紛争、人身売買、小児売春および幼児ポルノへの関与に取り組んでいる。これらの文書を結び合わせると、短期か長期かにかかわらず、作業療法士を含む保健専門職からの特別な支援を必要とする人々がいるという事実を指摘している。これらの考え方方は、この最低基準に社会志向的アプローチを含めたものになる。さらに影響力のある文書は、世界保健機構(WHO)の「(2001 年) 国際機能・障害・健康分類(ICF)」で、これは健康の構成要素と健康の環境的文脈の両者について取り組んでいる。ICF は、生活の全領域への人々の参加に対する健康状態の個人的・社会的成果を分類するシステムである。本文書に利用されている ICF の重要な概念は、健康状態、身体の構造と機能(これらは人間の正常な解剖学的、生理学的および心理学的な側面を含む)、活動、参加、そして、環境である。

ICF の展望から、作業療法の焦点は以下のように要約されるであろう。

- ・健康と福祉、人々のセルフケアや家事活動と、対人交流と対人関係、教育・仕事・余暇を含む主要な生活領域、および、コミュニティーや社会的・市民的作業への参加との関係。
- ・これらの作業への参加を支援あるいは妨害する環境要因。

作業療法と ICF の重要な相違点は以下のとおりである。

- ・作業療法は、健康と福祉の問への人々の経験に影響する個人的要因に特に取り組んでいる。
- ・作業と作業療法への参加に対する消費者の主観的経験の重要性。
- ・作業療法と ICF の両者ともが、環境における健康状態および健康関連要因が、参加に及ぼす影響に取り組んでいるものの、作業療法は参加と福祉に対する社会的、文化的および経済的影

響にも関心を抱いている。

国際的教育の観点

ユネスコの「高等教育の変化と発展のための政策文書」(1995)は、適切性、質、国際化という高等教育の3つのモットーを提案した。したがって、この最低基準改訂版では、作業療法士教育プログラムが以下の事項を必要とすることを強調している。

- ・地域の文脈にとって適正であること
- ・プログラムの質を持続的に改善するメカニズムを持つこと
- ・作業療法の国際的コミュニティーと強力で継続的な結びつきを持つこと

さらに、ユネスコが1998年に出した「21世紀に向けた高等教育世界宣言」は、高等教育へのアクセスの均等化という問題を強調している。本文書は特に、先住民族、文化的・言語的な少数民族、不利な立場に置かれたグループ、占領下にある地域の人々、そして、障害に苦しむ人々といった特定の対象住民のメンバーの高等教育への参加が推進的に促進されなければならないと強調している。この文書はまた、高等教育プログラムの卒業生の社会的責任も強調している。ユネスコは、技術移転可能性を求めるごとに、保健専門職が多様性と差異性とを尊重する必要性をも強調している。これらの側面は、WFOT最低基準の技能と態度の文章や教育プログラムに入学してきた学生に関する文章に反映されている。

影響力があったもう一つの文書は、世界保健機関(WHO)の報告書「保健専門職に対する教育の適切性の増大」(1993)であった。この報告書では、教育のプログラムが以下の事柄を必要とすることも強調している。

- ・普及している健康ニーズや優先事項と同様に、社会やコミュニティーの関心事に対して適切であること
- ・住民の健康行動に対する主張を強化すること

これらを達成するために、WHOの報告書は、以下の事項が必要であると示唆している。

- ・健康サービスの受け手となるであろう対象を定義すること
- ・その人々の健康に関連した問題は何かを決定すること
- ・その明らかにされた問題に教育プログラムが対応するよう保証すること
- ・そのプログラムの卒業生がそうした問題に取り組むことの有効性をモニターすること

さらに、この報告書は、コミュニティーの代表者が、問題を明らかにすることと、サービスの受け手が受けたヘルスケアに対する満足度を含む結果を評価することにかかるように勧めている。最後に、WHO報告書によれば、教育プログラムに求められる成果は、以下のような卒業生を輩出することであるとされている。

- ・情報を保持し、適用できること
- ・情報を検索し管理すること
- ・強力な批判的リーズニング技能を持つこと
- ・チームワークを推進する能力を持つこと

国際医学教育連盟(WFME)の「基礎医学教育における質の向上：WFME国際ガイドライン(2001)」と名づけられた文書も、教育プログラムの目的、使命および目標に関する議論という点で価値がある。

影響を受けた作業療法教育文書

以下の2つの文書は、本書で用いられている考え方、構成、内容および用語の開発に、特に訳だつた。

- ・「ヨーロッパにおける作業療法教育:カリキュラム・ガイドライン」は、2000年に、ENOTHEによって刊行されたもので、1999年のボローニャ宣言に対応している。
- ・1998年に刊行された「カナダ作業療法士協会：大学認可基準および自己学習ガイド」

第2部：作業療法教育プログラム

概要

本書の第2部では、作業療法教育プログラムの国際的および地域的文脈がその教育プログラムの計画や継続的展開の起点であるがゆえに、このことについて説明する。さらに、有能な作業療法実践のためには不可欠な知識、技能、態度の領域は、プログラムの目標を構成するがゆえに、この点についても説明する。

プログラムに入学する学生を大学院レベルに移行するための教育プログラム構成要素の最低基準は、本文書の第3部で説明する。国際的観点と地域的文脈、教育プログラムと卒業生の知識、技能、態度との関係は図1に示してある。

本書で使用される重要な定義については、用語集を参照されたい。

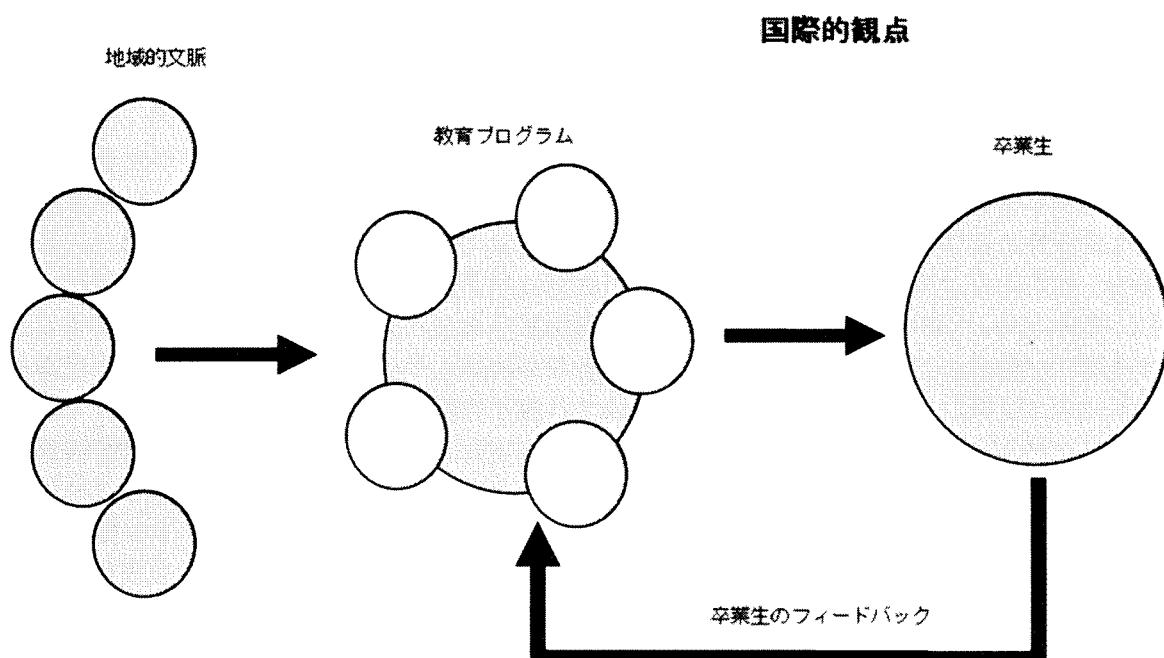


図1:作業療法プログラムの概要

国際的な保健、福祉、教育の観点

「WFOOT作業療法士教育の最低基準改訂版」の開発に大きな影響を及ぼしたとされた文書は、作業療法実践との関連でも、同じように重要である。（「保健専門職教育の国際文書」の章を参照されたい）。WHOの「すべての人々のための労働衛生に関する宣言(1994)」などの他の多くの文書、さらに国際労働機関(ILO)や様々な他団体によって作成された文書は、実践の文脈に影響を及ぼしている国際的レベルの健康、福祉および職業の問題に取り組んでいる。

さらに、WHOとユネスコは、安全で有能な実践を確保するまでの保健専門職教育プログラムの役割を強調している。これらの機関はまた、すべての保健専門職の実践は以下のものでなければな

らないと主張している。

1. 実践の地域的文脈にとって適切である。
2. 國際的な知識、期待および基準を知らされている。
3. 住民の健康ニーズに取り組む上で有効である。

したがって、本書に記述されている教育の過程、および「作業療法士教育の最低基準改訂版」は、地域的および国際的な展望を強調している。

作業療法教育プログラムの地域的環境

「地域的文脈」という用語は、一つの地理的領域を意味する。すなわち、保健・福祉ニーズ、文化的背景、また保健・福祉システムの特有の範囲を有する、国全体、州あるいは政治的に明瞭に分けられた地域を意味する。本文書では、一つの都市、郡あるいは小さな地区を意味することはまずない。

作業療法の実践に関係のある地域的環境の様相は次のとおりである。

- ・地域の健康と福祉のニーズ
- ・健康をもたらすとともに、健康状態に寄与する地域の作業
- ・作業療法士がその中で、または、共に働く地域の健康、福祉、障害、教育、就労、司法および芸術文化部門、および、新しい作業療法サービスの開発を促進する地域にとって適切な方法を含む作業療法士が働く方法を管理する法律
- ・その地域の作業療法の歴史

文脈のこうした側面のすべてが、文化的には相対的なものである。文化は、作業療法が有用かどうかに関する認識とともに、健康や良好な状態(well-being)に対する様々な健康の条件や脅威の相対的な重要性に関する信念に影響を及ぼす。さらに、文化的信念は、作業、健康状態と、身体的、精神的、社会的およびスピリチュアルな健康や良好な状態との関係に関する地域の理解に影響を及ぼし、そのため、どの作業が人々を傷つけたり援助するものと認識されているのかということに影響を及ぼす。最後に、提供したサービス、適用される法律、そして、いかなる社会の中にも存在している健康と良好な状態への個人的および社会的な責任の認識といったことも、文化の一部である。

作業療法カリキュラムを計画する人々や、作業療法学生を教育する人々は、学生がそのプログラムを修了するまでに効果的な実践にとって適切な知識、技能、態度を持つようになるために、地域の健康ニーズ、作業とサービス、そして、法律を理解する必要がある。さらに、カリキュラム計画者と教育者は、そのプログラムに入学する学生の以下の事柄に関する教育的背景を理解する必要がある。

- ・学生がよく知っていて、学生の学習を最大限に促進する教育方法論、したがって、教育戦略はプログラムを無事に修了した作業療法士に求められる知識、技能、態度を心構えを発達させるのに必要である。
- ・新入生の事前の知識、技能、態度、これが教育の過程の出発点を定める。

地域的文脈と新入生に関する知識は、作業療法士教育プログラムを開発する出発点となる(図1を参照)。また、地域の健康のニーズ、作業、サービス、法律および学生の知識、技能、態度が時間とともに変化するにつれて、そのプログラムを更新ができるようなシステムを導入しなければならない。

プログラムの哲学および目的

作業療法士教育プログラムは、国際的および地域的な観点と理解を他にないような方法で組み合わせて導き出された、作業に関する特有の哲学的理解によって導かれている。国際的観点は作業療法士に関する国際的に共有された理解に取り組み、一方、地域的観点はそのプログラムの文脈の中での適切性に取り組む。作業に関するそのプログラムの哲学的理解には、以下の事柄が含まれるであろう。

- ・作業の特性と意味
- ・人間の作業的特性
- ・作業への参加に関連して人々が経験する問題や満足の種類
- ・作業への参加に伴う問題にどのように取り組むのかといったことや、参加の経験や結果がどのように強化されるのかに関する文化的理解

教育プログラムの目的とは、卒業生が行うよう主に準備させられている種類の仕事、そして、彼らが働くことができると予想される場面の範囲を指している。例えば、以下の通りである。

- ・治療、ハビリテーション、リハビリテーション、生活様式再設計、職業復帰プログラム、技能開発といった個別的なアプローチ

- ・健康増進、地域開発、地域リハビリテーション(CBR)、損傷予防、環境計画といった地域アプローチやグループアプローチ

- ・一次健康管理、健康増進、ユニバーサルデザインといった住民へのアプローチ

哲学と目的は教育プログラムの中心であり、プログラムの計画、発展および提供のすべての側面の指標となる。

教育プログラムの構成要素

人々の健康と良好な状態とを促進するために作業を用いることが、作業療法に特有の要素であると同じように、作業は作業療法士教育へのすべてのプログラムの中心である。カリキュラムの内容と過程やそのプログラムでの学生の経験を含むプログラムのあらゆる側面は、作業的展望によって組み立てられる必要がある。

このように、作業に焦点をあてる中で、作業療法士教育のための特定のプログラムは、そのプログラムを卒業した作業療法士が取り組むことができる地域の支配的な健康福祉のニーズにかかわらずながら、作業への関心という特有のブレンドされたものに取り組む。これらのニーズが何であるかによって、プログラムは、参加することに対する健康状態の影響に取り組むこと、健康や良好な状態を促進するために作業的生活様式を修正すること、あるいは、戦争・極貧・ホームレス・文化的疎外・雇用制限といった作業への参加を妨げる社会的政治的な力から発生する健康のリスクに取り組むことに対して、多かれ少なかれ重点を置くこともある。そのプログラムが取り組む作業の特定の見方と作業的関心のブレンドされたものについては、「プログラムの哲学および目的」の節で記述されている。

こうした地域的な違いにもかかわらず、作業療法士の教育プログラムのすべては、プログラムの哲学および目的と首尾一貫性を持って開発される以下の5つの構成要素を含むものとなろう。

- ・カリキュラムの内容と順序
- ・教育方法
- ・臨床実習
- ・教育者
- ・教育の資源と設備

教育プログラムのこれらの5つの構成要素の詳細な説明は、本文書の第3部にある。第1に重要なことは、そのプログラムが首尾一貫した全体像を形成していること、学生の教育経験がそのプログラムを卒業した作業療法士が持つべき知識・技能・態度の発達を徐々にもたらすということを意図していることである。このことは以下のことを求めている。

- ・そのプログラムの各構成要素が、他の構成要素と互いにきちんと適合していること
- ・学生の学習を支援するために各々の側面が十分な深さと幅を持っていること
- ・そのプログラムが、地域的および国際的な知識と専門技術の均衡がとれていること
- ・プログラムの5つの構成要素すべてについて継続的な改善を保証するようなメカニズムが導入されていること

ここでの本質的な問題は、説明されている教育プログラムが新入学生を望ましい知識・技能・態度を持った卒業生へと転換することがどれくらいの可能性があるのかということと、地域の健康と良好な状態のニーズにうまく取り組むために彼らの特定の知識・技能・態度が備わるかどうかということである。国際的な知識を含むとは、世界中の作業療法の首尾一貫性と質を保証するという目標に取り組むことである。地域の知識と専門技術を含めることは、そのプログラムを卒業するセラピストの技能がその地域の文脈にとって適切かどうかということに取り組むことになる。それぞれのプログラムは地域の影響と国際的影響の間に独自のバランスを見つける出す必要があるだろう。

有能な実践のために不可欠な知識、技能、態度

前述したように、そのプログラムを卒業する作業療法士の特定の知識・技能・態度は、彼らが取り組むように準備してきた地域の健康ニーズに依存している。とはいえ、いかなる作業療法士も以下の5つの領域において、相当の知識・技術・態度を持つよう期待される。

- ・人間-作業-環境の関係と、健康と福祉に対する作業の関係
- ・治療的および専門的人間関係
- ・作業療法の過程
- ・専門家としてのリーズニングと行動
- ・専門的実践の文脈

知識・技能・態度の定義については、用語集を参照されたい。

卒業生の実践に関するフィードバック

WHOが述べているように、健康専門家を実践のために準備させるすべての教育プログラムは、地域の健康ニーズを満たすという点で、卒業生の有効性をモニターする責任を負っている。この中には、彼らが準備してきた地域の健康サービス、障害サービスおよび社会サービスの中での仕事ぶりに、どれくらいの成功をおさめているかということが含まれる。新たに認定されたセラピストの遂行に関して得られた情報は、その教育プログラムの継続展開のための情報をもたらしてくれる。その結果、時間とともにその教育プログラムの有効性が改善し、そのプログラムを卒業したセラピストを説明する知識・技術・態度は、地域の健康サービス、障害サービスおよび社会サービスが変化するとともに修正される。

作業療法教育プログラムの地域的文脈

地域の背景について知ることは、作業療法教育プログラムの発展にとって不可欠である。異なる文脈の中で働く作業療法士は、そこで優勢な健康や良好な状態のニーズや、彼らが働く部門(例えば保健、社会福祉、就労、教育、芸術文化、司法)によって社会に対する貢献も異なる。社会に対する作業療法の貢献は、カリキュラムの設計に反映させるために、その社会にどんな情報の収集を必要とするかを決定させることになる。

地域的文脈には、作業療法への政府の支援を含めて、その社会にこの専門職がどれほど理解され、求められているのかということが含まれる。地域的文脈には、その国に作業療法がもともとどのように導入されたのかといったことや、時間とともにどのように発展してきたのかといったことも含まれる。

地域的文脈の5つの側面は、次節で述べる知識・技能・態度をもつ卒業生を輩出するために、作業療法教育プログラムで教えられる必要があること、また、それがどのように教えられるのかということに影響する。これらの要因は図2に示されるとともに、以下に説明する。

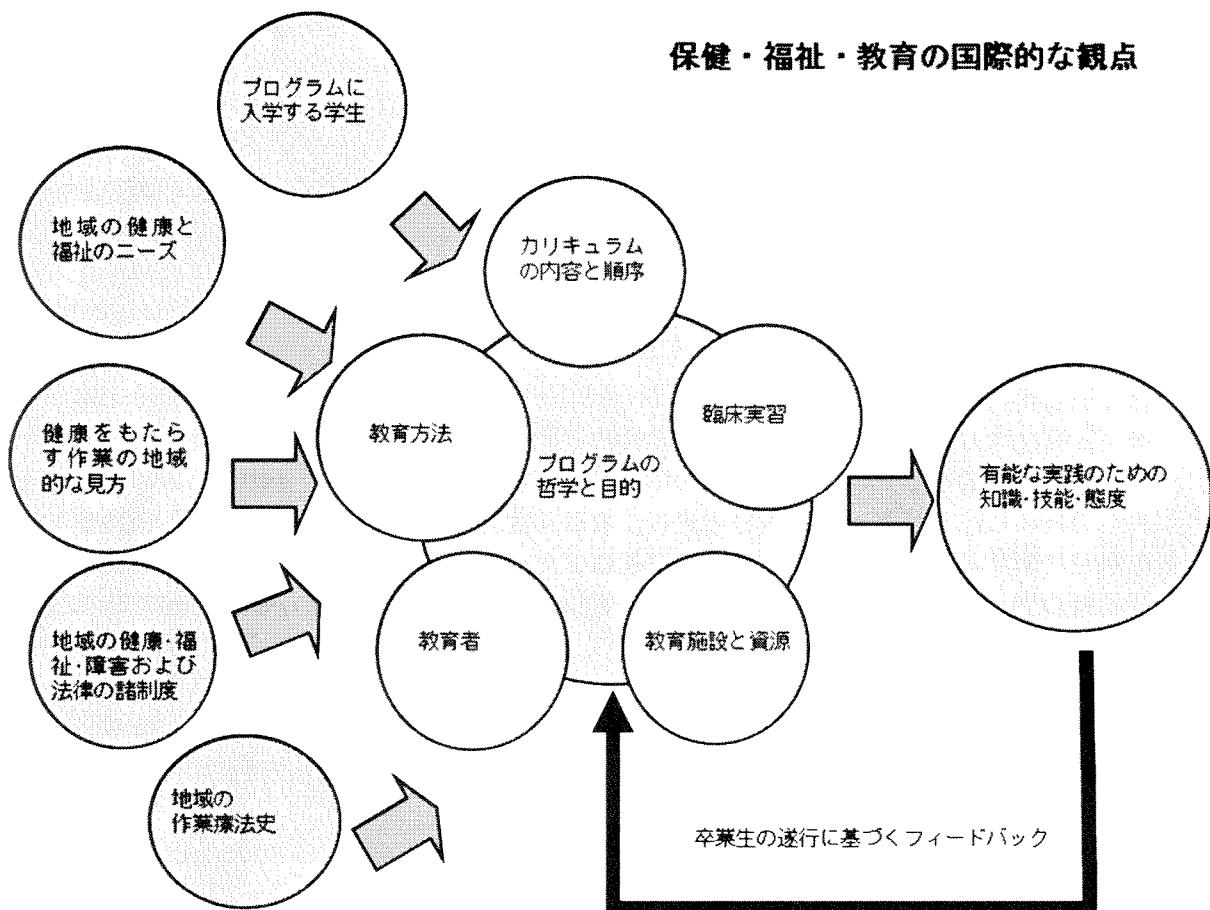


図2:作業療法教育プログラムの構成要素

プログラムに入学する学生

第1に重要なことは、作業療法士教育プログラムに入学する学生はそのプログラムをきちんと修了する能力を持っているということである。これは、プログラムに入学する学生は入学前に中等教育またはそれと同等の教育をきちんと卒業していることが必要であるということである。

プログラムがとくに知る必要のある情報は以下のとおりである。

- ・将来の学生が、作業療法教育プログラムと同等と考えられる第3段階(高等教育)プログラムに入学し、ついていけるレベルで、中等教育を好成績で卒業したことを示す証明
- ・入学する学生が慣れ親しんでおり、かつ、学生の学習を最も促す優勢な教育方法、なぜならば、このことが学生の学習を支援し、説明されている卒業生の知識・技能(認識技能を含む)・態度を展開するために選択された教育戦略に影響を及ぼすため
- ・入学する学生の人口統計(すなわち性別、社会的状態、少数民族出身など)、および、それが作業療法を受ける可能性のある人々と比較したらどうなるか。理想的には、学生の人口統計が母集団の人口統計と対応するものであること
- ・学生の母国語

登録に必要な地域の条件など、実践に対する卒業生の適格性に影響を及ぼすかもしれない情報も

収集されるかもしれないし、あるいは、応募者は登録の適格性に対して何らかの制限を認められるかもしれない。応募者の応募時年齢は、卒業時の登録の適格性に影響を及ぼすかもしれないこと以外では、必ずしも重要な選抜基準ではない。いかなる差別も受け入れてはならない。人種、性、言語、宗教、その他の社会的・文化的な違いといった要因は、学生選抜に影響を及ぼしてはならない。

地域の保健・福祉ニーズ

WHOに対応して、社会やコミュニティの問題や目標に関する知識、そして、普及している保健・福祉ニーズは不可欠なものと考えられる。プログラムは以下のものを系統的に集める必要がある。

- ・高齢者人口および保健・福祉ニーズの発生率といった健康ニーズの傾向を含む地域の健康・福祉ニーズに関する利用可能な情報
- ・幼児死亡率、平均寿命および健康をおびやかす条件の主たる原因といった疫学データ
- ・健康と福祉に対して明らかにされている脅威と健康状態に影響を及ぼす要因
- ・その社会での異なる集団の健康状態の差違に関する情報

これらの情報は、カリキュラム内容の選択、教員集団内で必要な知識と専門技術の融合、および必要な教材に関する情報をもたらす。この情報はまた、このプログラムにクライエント、地域の専門技術を持つ者、適切な臨床実習の配置などに近づくために開発される必要があるコミュニティとの結びつきに関する情報をもたらす。

地域の保健、福祉、障害および法律の諸制度

地域の制度との関連で必要な知識には、以下のものがあろう。

- ・その国の保健・福祉の目標と優先事項
- ・保健、健康システム、および作業療法士を含む保健専門職の法律といったことを包括する、作業療法実践の全領域にとって適切な法体系の側面
- ・公的・民間保健サービス、障害サービス、非政府組織(NGO)、開業、地域開発および地域リハビリテーション機関、一次健康ケア戦略、健康教育戦略、自助戦略といった健康・福祉制度、構造および組織
- ・住宅、雇用、教育、芸術、文化などの部門に関する適切な情報と司法制度
- ・健康保険制度、健康増進基金、地域開発基金などの健康基金制度

こうした情報は、カリキュラムの内容に特定の法律や政府の政策、教育者に求められる知識と専門技術の組み合わせ、確立する必要があるサービスや組織との結びつきなどを含むよう情報をもたらす。

地域で健康をもたらす作業

その地域の作業に関する信念、価値、意味を理解することは、作業療法士がその地域の文脈の中で作業をどのように用いるのかという情報をもたらす。作業が用いられるやり方は、以下のものを持むことがある。

- ・良好な状態を強化したり、健康を回復する道具としての使用
- ・不利益や機会剥奪と潜在能力間のギャップを埋める社会や地域の発展のための道具として
- ・作業療法介入の目標を説明するため
- ・個人の作業遂行を妨げていること、あるいは、その人の環境が作業への参加をどのように支援したり妨害するかといったことを評価する手段として
- ・保健・福祉の政策や立法措置に影響を与えるための焦点として

全ての作業療法教育プログラムは、人々の日常生活の一部をなす、その地域の作業に関する知識を必要とする。この知識には、地域の作業が健康にどのように寄与しているかといったことや作業がどのように不健康の源になりうるかといったことも含まれる。これは、そのプログラムで教えられ、治療的に用いられ、目標として確認された作業が、文化的・経済的・年齢と性に関して、作業療法の受け手にとって適切であることを保証する。

地域の作業療法史

作業療法史の知識は、これまでに行われてきたことに敬意を表すと同時に、現代の実践が以前の実践とどのように類似しており、また、異なるのかを認識する文脈をもたらす。この知識には以下のものが含まれるであろう。

- ・専門職の開拓者と、彼らがこの社会の中で作業療法の立場と地位をどのように確立したか
- ・作業療法がどのように見なされ、また受け入れられてきたか
- ・作業療法士の登録を含む、専門職の法的地位と認識
- ・政府および非政府のセクターとの協力の構築
- ・作業療法士によって創設されたサービス
- ・過去に実践を導いた理論
- ・現在および過去に作業療法士によって提供された介入のタイプ
- ・作業療法協会の設立と役割
- ・その教育部門の歴史

こうした知識は、作業療法の地域資源、講師となる可能性のある人、臨床実習配置などについて、そのプログラムに情報をもたらし、地域の役割と作業療法士の範囲の形成を援助する。

有能な実践のために不可欠な知識・技術・態度

本節では、作業療法教育プログラム卒業生の知識・技能・態度を説明する。ここで「卒業生」とは、その資格が資格認定（専門士）、学士、修士を問わず、きちんと作業療法教育のプログラムを修了した学生をさす。能力の5領域について述べる。これらは次のとおりである。

- ・人間-作業-環境の関係と、その健康との関係
- ・治療的および専門的人間関係
- ・作業療法の過程
- ・専門的なリーズニングと行動
- ・専門的実践の文脈

WFO認定の教育プログラムの卒業生は、これらの**5領域のすべて**において、知識・技術・態度を持つであろう。しかし、ある特定の作業療法プログラムの卒業生がもつ特有な知識・技能・態度は、以下のものによって決定されるであろう。

- ・地域の健康ニーズの特性
- ・地域の健康、福祉、障害および法律の制度
- ・地域的に適切な健康をもたらす作業
- ・そのプログラムの哲学と目的

「知識・技術・態度」の文章の後の斜字のコメントは例示であることに注意されたい。これは学生が学習する事がらの完全なリストではなく、ある文脈での作業療法士の知識・技能・態度の説明としては適切であるとはいえないかもしれない。またある場合には、例示された概念間に矛盾することがあるかもしれない。

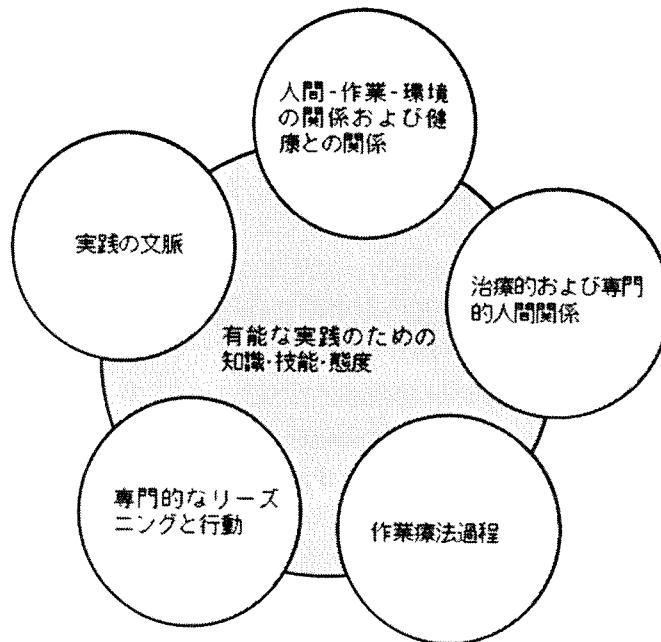


図3. 新卒者が十分な実践を行うために必要不可欠な知識、技術、態度の領域

人間-作業-環境の関係および健康との関係

作業

本節では以下の点について述べる：作業に関する卒業生の知識、作業を分析し、適応し、段階づける技能、それに影響を及ぼす作業遂行と環境要因の分析に関する技能、そして、異なる人々の作業への参加に関する卒業生の態度である。卒業生の以下のものが含まれる。

人々の作業への参加に関する理論と研究知見の知識には、以下のものが含まれる。

- ・ 作業とは何か

作業形態といった考え方、仕事、休息あるいは遊びといった作業のタイプ、活動や参加といったICFの領域などは、ここに含まれるであろう。
- ・ 作業に対する文化的影響
- ・ 人々がなぜ作業に従事するのか
- ・ 作業はどのように遂行され、どのように組織されるか
- ・ 熟達した遂行の特徴
- ・ 作業の時間的側面
- ・ 作業の主観的経験と個人的意味
- ・ 個人、集団、社会、そして、環境に対する作業の成果
- ・ 作業は健康に影響を及ぼし、また、参加の度合いや参加に伴う満足を高めるために、どのように治療的に用いられるか

人間作業モデル、カナダ作業遂行モデル、人間-作業-環境モデル、オーストラリア作業遂行モデル、日本の作業療法の川モデル、その他の地域の理論、さらに作業科学の知見などは、人間の作業に関する理論に含まれる。

技能には以下のものが含まれる。

- ・ 以下のことを評価する技能
 - 個人や集団の作業に関する信念と作業的目標
 - 作業遂行技能
 - 作業に対する能力
 - 活動の制限
 - 参加に伴う満足感を含む参加
 - 参加の成果
- ・ 作業を分析し、適用し、段階づける技能
活動分析や作業分析の技能はこれに属する。
- ・ 作業を治療に用いること
活動統合や作業統合、グループ活動の計画と実施、作業遂行技能を教育するといった技能はこれに属する

作業と作業実践に関する信念における個人や文化の違いに対する**態度**

人間

本節では、卒業生の、人々に関する知識、人々と共に仕事をするまでの技能、そして、人々に対する態度について述べる。卒業生の以下のことがらが含まれる。

以下のことに関する理論と研究知見の**知識**

- ・ 作業的存在としての人間
- ・ 作業への過去、現在、将来の参加に対する感情、反省、解釈
- ・ 生涯にわたる作業と人間発達の関係
作業の妨害といった考え方はここに含まれる。
- ・ 心理的要因と作業の関係
障害に対するストレス、対処、適応といった考え方はここに含まれる。
- ・ I C Fで定義されたような身体構造と機能の関係や、作業に参加する人間の能力
- ・ 作業を通しての個人的意味の経験と表現
スピリチュアリティといった考え方はここに属する。
- ・ 身体構造や機能に対する変更や挑戦、発達過程、社会的・文化的・文化的妨害、あるいは、作業の個人的意味といったことが、人々の作業への参加や参加経験をどのように変えるのか
- ・ 作業に参加する可能性を保つために、身体構造や機能への妨害をどのように管理するのか
生体力学や心理社会的なコーピング、スプリント作成と適合、筋緊張の管理、関節の健全性、与圧服、そして、姿勢を維持し与圧の影響を減ずるシーティングシステムなどの介入の原理といった理論

以下の**技能**

- ・ 参加に影響する個人的要因の評価
- ・ 個人、組織あるいは地域に対して作業療法を提供するため、理論、原則および研究知見を適用すること

一人一人の価値観や人々の適応・変化する能力に関する**態度**

環境

本節では、環境に関する卒業生の知識、参加を促進するために環境を分析し修正するまでの卒業生の技能、および、環境上の問題に関する卒業生の態度について述べる。これには卒業生の以下のことがらが含まれる。

以下のことに関する**知識**

- ・家族、友達、コミュニティのメンバー、雇用者、教師などのような社会的文化的環境の側面が、人々の作業への参加にどのように影響するのか
　　人種差別、社会的スティグマおよび作業的公正といった考え方方が含まれる。
- ・建物の設計、都市計画、輸送機関や遊び場などの環境内の資源、その地域の地理が、人々の作業への参加にどのように影響するのか
　　人間工学の知識やユニバーサルデザインのような考え方方がここに入る。
- ・制度的人種差別、アパルトヘイト、貧困などの制度化した環境の側面が、人々の作業への参加にどのように影響するのか
　　作業剥奪といったような考え方方がここに入る。

以下の**技能**

- ・環境が作業への参加に対するバリアをどのように助長し、作り出しているかを評価すること
- ・参加を促進するために環境の人的、物的な面を改変すること
　　カウンセリング、役割のモデリング、相談、グループワーク、実演、教育、訓練、物理的環境の改変、そして、テクニカルエイドの設計や処方といった考え方方は、ここに入る

参加に対するバリアとなる要因に対する態度、および、人々が生活するために選んでいる環境に関する**態度**

作業と健康の関係

本節では、作業が健康にどのように影響を及ぼしているのか、また、健康が作業にどのように影響を及ぼしているのかについて述べる。それには卒業生の以下のことがらが含まれる。

以下の**知識**

- ・活動の制限や作業への参加が、健康にどのように影響しているのか。これには、健康的環境や順応といった個人的要因を維持する能力が含まれる。
- ・健康状態、および健康に対する脅威が、どのように作業への参加に影響するか。

作業に関連する健康を評価する**技能**

健康、病気の原因、および健康をもたらす作業に関する他の人々の信念に対する**態度**

治療的および専門的人間関係

この領域の知識・技能・態度は、作業療法の受け手の有効な実際的な関係、および効果的なチームワークを築きあげることについて述べる。

作業療法の受け手との関係

本節では、クライエントの家族、介護者あるいはその他の重要な人々を含む作業療法の受け手の人間的環境を作りあげている人々との効果的で実際的な関係を築くことが含まれる。これには卒業生の以下のことがらが含まれる。

治療的関係やコミュニケーション過程の特徴に関する**知識**

患者を中心据えること、あるいは、患者指向的セラピー、協業、指導力、コーチング、動機づけ、希望、エンパワーメント、クライエントの選択、人々を尊重して扱うことといった考え、および信頼を確立する方法に関する考えはここに入る。

異文化の人々を含む自分とは違う人々との関係を築くこと、作業療法に従事するための準備を決定し、促進すること、そして、文化的に適切な方法で彼らとコミュニケーションをとる上での**技能**
面接やカウセリングの技能などのコミュニケーション技能はここに入る。

他人の信条や実践を尊重することを含む作業療法の受け手に対する**態度**

*ICF*で示されたような個人的要因、人々の健康状態の原因、あるいは、人々の作業への参加に対するバリアを経験する理由といったことにかかわらず、人々に対して前向きな態度を保つことはここに入る。

チームおよび組織のメンバーとの関係

本節では、組織の中で働くことと、チームメンバーとの効果的な仕事上の関係を築くことについて述べる。チームには、家族、重要な他人を含む健康ケアチームのメンバー、作業療法助手、消費者代表、文化的アドバイザー、健康・福祉・教育・障害といったサービスを管理し提供する人々、および地域のメンバーが含まれることもある。チームの一員であると考えられる人は実際にはだれなのかは、そのプログラムの哲学と目的にかかっている。これには卒業生の以下のことがらが含まれる。

チームワークの重要性、他の適切なサービスの提供者の役割、および効果的で実際的な関係を築く方法に関する**知識**

協業的に働くこと、多職種間チームや専門分野を越えたチーム、および、共通目標を目指して働くことといった考えはここに入る

組織内で働くことや、作業療法士が責任を負う人々や作業療法士が担当する人々を含む様々な人々との効果的で実際的な関係を築くことにおける**技能**

コミュニケーション技能やプロ意識はここに入る。

効果的で実際的な関係を推進し、作業療法の受け手に対する成果を最大限にする他のチームメンバーに対する**態度**

作業療法プロセス

本節では、作業療法の受け手に働きかける時に作業療法士が従う過程について述べる。この過程の特性は介入の文脈と目的に応じて変化するであろうし、問題解決、可能にすることやエンパワーメン、協業、そして相談的なアプローチを含むかもしれない。それは作業療法が行うことであり、物事が行われる順序である。作業療法過程は、個人、グループあるいはコミュニティーの健康と福祉のニーズに焦点を当ててもよい。これは卒業生の以下のことがらを含んでいる。

作業療法過程に関する**知識**、およびそれを実行する上での**技能**には、以下のことがらが含まれる

- ・ 作業療法に対するニーズをスクリーニングすること
- ・ 作業のニーズを評価すること

これには次のことを評価することが含まれよう

- ・ 変更の過程に就くためのその人の準備
- ・ 健康と作業への参加に影響を及ぼす個人的要因
- ・ 健康と作業への参加に影響を及ぼす環境的要因
- ・ 健康上の問題の原因を明らかにするための、身体の構造と機能の状態
- ・ 作業のニーズと目標を定めるための作業療法の受け手と協業すること

目標は以下のことながらに焦点を当ててもよい

- ・ 作業への参加を促進するために個人的要因を変えること
- ・ 作業の制限を減少すること
- ・ 環境上のバリアを少なくすること
- ・ 参加を促進するために環境を変えること、あるいは、参加によってもたらされる利益を変えること
- ・ 身体の構造や機能のレベルに介入することによって、作業に対する可能性を維持すること

介入の目標を決定することへのクライエントの参加といった考えはここに入る

- ・ 健康と良好な状態を増進するために適切な作業介入の選択と計画
- ・ 介入の実施とその有効性の監視
- ・ 介入結果の評価

これには参加の成果、作業療法の受け手が介入とその成果に満足する程度、あるいは、介入の効果などを評価することが含まれる。

- ・ 作業療法の処方、評価法、介入および成果の記録を維持すること

これには記録と報告書が含まれよう。実際の要件は地域の法的・専門職的文脈に応じて変わることになる

作業療法の過程に沿って実行し、作業療法の受け手にこの過程に就いてもらい、作業療法の介入を記録し報告する**技能**

健全で専門職のやり方で作業療法の過程を実行することに対する**態度**

専門的リーズニングと行動

本節では、以下の5つの構成要素から成る地域的国際的な期待にかなう質の高いヘルスケア勤労者について述べる。それらは研究、情報探索の過程、倫理的実践的専門職の能力、熟慮した実践、および、自己・他人・サービスを管理することである。

研究・情報探索の過程

以下のことながらをどのように行うかに関する**知識**

- ・ 理論的情報や研究結果を見つけること
- ・ 理論や研究結果が、人間、健康、作業に関する作業療法哲学や作業療法と首尾一貫しているかどうかを評価すること
- ・ 研究結果を含む情報の適切性と信頼性を評価すること
- ・ 矛盾する情報を正しく判定すること

妥当性、信頼性、最善の実践、根拠に基づく実践といった考え方はここに入る

情報を効果的に突きとめ、理解し、評価すること、理論と研究結果を用いて正当化することを含めて、情報を実践に応用するまでの**技能**

批評的リーズニング技能といった考えはここに入る。

理論開発と研究知見の実践への応用に評価を置くことによって質の高いサービスを保証すること、および、実践が利用可能な最良の情報によって情報を与えられていることを保証することに向けた**態度**

倫理的実践

国内および国際的な倫理的ガイドラインや理論、正誤に対する地域の見方、および、人々がどのように行動し相互作用するのかに関する**知識**

これは、次のような考えが含まれる。

- ・ 作業療法の受け手が、可能な範囲の介入とそれらがもたらしがちな成果を知られることを保障すること
- ・ 評価と介入の過程に対する同意
- ・ クライエントに関する情報の機密性
- ・ 起こりうるリスクについて知ることの公衆のニーズ
- ・ 作業療法を受ける人と受けない人との決めること
- ・ 作業療法介入をいつ止めるか決めること

以下のことにおける**技能**

- ・ 倫理的な問題とジレンマを認識すること
- ・ どんな義務や職責があるのか、また、どんなモラル上の属性や特性が実施されるべきかを明らかにすること
- ・ 問題にどのように反応するのかを分析し決定するために、クライエントや他の人と協業することを含めて、行動の倫理の方針を決めること
- ・ 展望と行動の正当化

セラピストの社会に対する倫理的責任と同様に、その地域の文脈の中で認められるような価値や必要性、または倫理的実践に対する**態度**

専門的能力

自分の知識、技能、態度はどんなものなのか、それらがどれくらい新しくて、受け入れられるもののかに関する**知識**

専門的能力や自分の能力の限界を知ることといった考え方はここに入る

以下の**技能**

- ・ 自分の現在の知識・技能・態度の適切さを評価すること
- ・ 知識・技能・態度が改善を必要とするかを認識すること
- ・ 情報や専門技術を明らかにしてアクセスすることや、スーパービジョンを受けることといった知識・技能・態度を継続的に改善すること

専門家としての生涯のキャリアを通して、知識・技能・態度を最新のものにするニーズと、実践がスーパーバイズされるだろうという期待を求める**態度**

生涯学習といった考えはここに入る

自省的実践

自省的実践に関する**知識**

以下のような、実践遂行中と後で、自分の実践のすべての側面の質を系統的に自省する**技能**。これには以下のことが含まれる。

- ・ 治療的関係
- ・ 作業療法を受ける人々の経験
- ・ 作業療法の受け手にとっての作業療法の有効性

- ・作業療法の受け手の人間的・物理的環境に及ぼす作業療法の影響
- ・健康管理チームのメンバーとの交流
- ・健康サービスに対する作業療法の影響
- ・地域に対する作業療法の影響

自分の行為が他人にどのように影響を与えるかということと、自分の行為が継続的な改善の基礎としてどのように有効であるかについて考える必要性に対する**態度**

自己、他人およびサービスの管理

説明責任、質の改善、情報管理システム、資源、自分と他人の実践の管理サービスの期待と過程に関する**知識**

時間管理、サービス管理、設備追跡システム、対費用効果、消費者の満足度評価、仕事に関するストレスおよび燃え尽き症候群などの考えはここに入る

以下の**技能**

- ・高品質で適時のサービスを提供しながら、実践場面での自分自身や他人の健康をモニタリングし維持すること
- ・サービスの継続的改善

自分自身や他人の遂行を専門的に管理することの重要性に向けた**態度**

専門的実践の文脈

本節は、人々の健康と参加のニードに影響し、また、作業療法実践に影響する物理的環境、態度的環境、社会的環境の諸側面に関するものである。提供が障害を持つ子ども達を教育に参加させるといった地域的要因と、障害者権利運動や先住民の権利といった国際的要因の両者が含まれる。

以下のことに関する**知識**

- ・健康と良好な状態と関連する人権
 - ・健康と良好な状態の文化的理解
 - ・健康と良好な状態の決定因子
 - ・自国の健康ニーズ、優先事項および目標
 - ・健康、福祉および障害のシステム
 - ・適切な健康、福祉、障害、消費者、アクセスおよび職場の法律
- 消費者の権利やユニバーサルデザインといった考えはここに入る

以下のことに関する**技能**

- ・入手可能性を計画し提供すること
- ・適切なサービスや法律の展開に影響を及ぼすこと
これには学校、遊び場、職場といった健康サービスあるいは地域資源の開発を促進することが含まれるかもしれない。
- ・異なる健康、福祉および障害サービスの中で働くこと
- ・サービスの提供を管理すること

予算・法律の制約内で働くこと、地域のシステム、必要条件および機会にうまく反応するといった考えはここに入る。

健康サービスを受け、健康をもたらす範囲とバランスを持つ作業に参加するための人々の権利に対する態度

第3部:作業療法士教育の最低基準

WFO T作業療法士教育最低基準 2002 年改訂版は、最低基準を設定することと、所定のレベルを越えた質の継続的発展を促すことを意図したものである。この基準は、各国や地域の差異と同じく、プログラム設計のダイナミックな性質を認識している。十分に定着したプログラムでさえ、この最低基準のすべてに従っていないかもしれないし、更新される必要があるかもしれない。

入職レベルの作業療法士を養成するためのこの教育プログラムの最低基準は、次の 6 項目から構成されている。

- ・ 哲学および目的
- ・ カリキュラムの内容と順序
- ・ 教育方法
- ・ 臨床実習
- ・ 教育施設と資源 (資金提供を含む)
- ・ 教育者

この最低基準は上記の各項目について、以下の 5 つの問題に取り組む。

- ・ そのプログラムの地域的文脈、その教育プログラム、そして、卒業生の知識・技能・態度との間の**調和**
- ・ そのプログラムの各側面の**深さと広がり**
- ・ **地域的文脈**との関連性あるいは適合性
- ・ 健康、福祉および教育の実践に関する国際的な考え方と同様に、**国際的な**作業療法のコミュニティーの期待との首尾一貫性
- ・ プログラムのこれらの各側面の**継続的な質の改善**のためのメカニズム

ある基準の下に斜字で書かれたコメントは、この基準の側面、あるいは、この基準をどのように満たすのかについて説明している。これらの例は決して完全なものではないし、また、これらがあらゆる作業療法カリキュラムに必須の構成要素であることを意味するものではない。

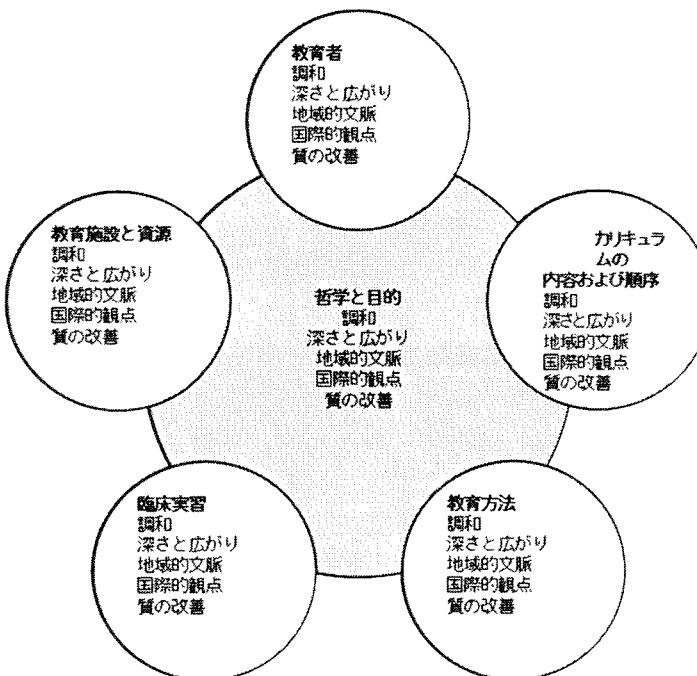


図4:作業療法士教育プログラムの評価基準

哲学と目的

調和: 哲学と目的の文章の要素はともによく適合し、そのプログラムの包括的な基礎をもたらしている。

深さと広がり: 哲学は、人間の作業的見方、人間が直面する作業上の困難、および、作業を可能にする方法に取り組んでいる。目的には、健康と福祉に対する個人、地域やグループ、および、住民へのアプローチが含まれる。

地域的文脈: そのプログラムの哲学と目的は、現在予想される健康と福祉のニーズ、作業、および、そのプログラムが設置されている国家や地理的領域のシステムと優先事項に沿ったものである。

国際的観点: そのプログラムの哲学と目的は、作業療法士の国際社会によって共有されている作業と作業療法の概念を反映している。

質の改善: 哲学と目的の声明文は、現時点に照らして検討され、地域の変化や国際的な知識の発展に対応して改訂される。

その教育プログラムの全側面にわたり、述べられた哲学と目的の実施を定期的に検討するプロセスが定められている。

カリキュラムの内容と順序

調和: カリキュラムの内容と内容の順序は、プログラムの哲学や目的によく適合している。

深さと広がり: 学術的自治という方針があり、それに基づいて作業療法士によりカリキュラムが計画されている。

カリキュラムの内容と過程は、次のようなものである。

- ・ そのプログラムの卒業生のために特定化された知識、技能、態度（「卒業生の知識、技能と態度」の節を参照）のすべてに取り組む
- ・ 明瞭に表現されている
- ・ 計画され、系統的にスケジュール化されている
- ・ 効果的に管理されている

プログラムの少なくとも 60%は作業療法に焦点を当てている。それにはこの知識と関連する技能と態度を実践に統合する臨床実習を含む。

プログラムの 10~30%は、身体の構造と機能に関する理解を支援する知識と生物医学に焦点を当てている。これにはこの知識と関連する技能と態度を実践に統合する臨床実習を含む。

プログラムの 10~30%は、人間と社会的環境についての理解を支援する知識と健康の社会的展望に焦点を当てている。これによりこの知識や関連する技能と態度を

実践に統合する臨床実習を含む.

高等教育における学士または資格認定レベルのプログラムは、最低3年間あるいは90週間である。

プログラムの期間は、その地域で同等とされている職業のための認定プログラムと一致していること。例えばノルウェーやニュージーランドでは、教師、技術者、理学療法士および会計士が同等と考えられている。

地域的文脈: カリキュラムの内容は、地域の健康、良好な状態、作業のニーズ、健康、福祉、教育、司法、および障害のシステム、美術・文化部門、および法律制定に対して適切である。

国際的観点: カリキュラムの内容は、現代の国際的な理論、研究知見および作業療法実践、および、例えばクライエント中心主義といった専門的実践の期待から引き出されている。

これは作業療法の国際的コミュニティーとの結びつきによって達成されるであろうし、また、これには他の作業療法プログラム、ピアレビュー・プロセス、教職員の交換、およびプログラムの検討への国際的モニターや調停者の関与といった協業関係を含むこともある。

質の改善: カリキュラムは継続的に検討され、3年のプログラムでは少なくとも5年、4年のプログラムでは少なくとも7年ごとに改訂される。検討と改訂は、学生、消費者、学際的チームのメンバー、地域の作業療法協会またはベテランのセラピスト、地域と国際的な作業療法の同僚などからのフィードバック、および、そのプログラムの卒業生の遂行に関して収集された情報といった一定範囲の情報源によってなされる。

これには、カリキュラムのピアレビュー・自己レビュー、学生のフィードバック、調停とモニタリングのプロセス、諮問委員会と調査委員会、学部の検査者などが含まれることもある。

教育方法

調和: 教育方法は、人間や作業の見方と、また、そのプログラムの哲学と目的と一致している。

深さと広がり: 用いられる教育方法の範囲は、卒業生の知識・認知と実践技能・態度の発展を支援し、また生涯学習を促進する。

教育方法には、事例研究、作業療法の受け手との学習や受け手からの学習、話し合い、技能の訓練、課題、熟慮した訓練、プロジェクト、文献調査、体験学習、問題に基づく学習(PBL)、多職種間の学習、講義などがある。臨床実習については項を改めて述べる。

学生の改善と学習成果の質をモニターするために用いる評価戦略の範囲は、卒業生の知識・技能・態度の発展を支援する。評価法は教育方法と合致する。

地域的文脈: たとえば内容領域に熟練し知識豊富な人々や、作業療法の介入の受け手といった地域の専門家が利用される。教育と学習の地域の伝統を評価し取り入れる。

国際的観点: 教育実践は国際的な教育理論や研究によって知識を与えられ、また情報とコミュニケーションの技術を利用する。

これには、問題に基づく学習(PBL)、成人の学習理論、通信教育などが含まれる。

質の改善: 教育方法の継続的改善の過程は、タイムリーになされ、また、厳格に設定され、学生を含む多数の情報源を用い、獲得された情報はそのプログラムの継続的な発展に利用するために用いられる。

これは、教えることのピアレビュー、学生のフィードバック、スタッフ間での話し合い、反省会、調停およびモニタリング・プロセス、諮問委員会と調査委員会、学部検討官、教育専門家などが含まれる。諮問委員会と調査委員会には、そのプログラムに在籍している学生や、そのプログラムの卒業生を含むこともある。

臨床実習

臨床実習はこの教育のプロセスの中心である。臨床実習はカリキュラムの内容に含め、また一つの教育方法であるが、追加基準が適用されたために別に項目を設ける。

臨床実習の目的は、学生が、実践の中での知識、専門的リーズニング、専門的行動とを統合し、作業療法士の認定に求められる能力レベルの知識、技能、および態度を発達することである。臨床実習に対する学生の達成度はこのカリキュラムのすべての側面における場合と同じように評価される。

調和: 臨床実習の経験は、そのプログラムの哲学や目的と一致している。この首尾一貫性は、作業療法実践が行われようとしている現場への臨床実習の配置を除外することはない。

深さと広がり: 学生は多様な臨床実習の配置を経験し、そこで異なるニーズを持つ多様な人々と、異なる環境の中で、実践するための知識、技能、態度を統合するよう求められる。学生の経験範囲には、常に、以下の事柄を含んでいる。

- ・ 異なる年齢集団の人々
- ・ 健康上のニーズを、最近になって獲得した人々や長期にわたって持っている人々
- ・ 人間、作業および環境に焦点を当てる介入

学生の経験には、通常、次のパラメーターのうちの少なくとも3つが含まれるだろう。

- ・ 性、少数民族などといった、作業療法の受け手となる住民を反映しているある範囲の個人的要因
- ・ 個人、コミュニティーや集団および住民へのアプローチ
- ・ 異なる種類の活動制限を引きおこす身体の構造と機能の異なる様相に影響する健康状態
- ・ 病院や地域リハ、公的と私的、健康と教育、都会と田舎、地域的と国際的といった異なる供給システム
- ・ 非熟練労働などへの配置転換をされて見合わない仕事をしている人々、エンパワーメントされていない人々、財産のない人々、あるいは社会的に逆境にある人々に対して、および、その人々と共に、展開されつつあるサービスといった既存の、あるいは創発しつつあるサービス；作業療法の専門知識から利益を得るかもしれない組織や企業；あるいは美術や文化的なサービス

それぞれの学生は、理論を実践へと確実に統合するために十分な時間の臨床実習を修了する。通常、少なくとも 1,000 時間が期待されている。臨床実習 1,000 時間とは、それぞれの学生が実際の人と、あるいは、その人と共に作業療法プロセスあるいは以下のような側面の作業療法プロセスを実行することに費やす時間をさす。

- ・ 人間-作業-環境の関係と、その関係との人の健康や良好な状態にどのように影響を及ぼすかを解釈すること
- ・ セラピー上の関係や専門的関係を築き上げて評価すること
- ・ 作業療法の評価または介入の計画をして準備をすること
- ・ 作業療法の過程（あるいは、そのある側面）を実施すること
- ・ 専門的リーズニングや行動を実際に示すこと
- ・ 専門的実践の文化という知識を作り出すか、または用いること

臨床実習への配置は、理論を実践と統合するために十分な期間であるべきである。少なくとも、いくつかの配置期間は 2か月にわたることが期待される。

臨床実習はカリキュラムの各学年を通して配分される。

学習の深さを保証するため、臨床実習は学習契約によって指導され、少なくとも 1 年の経験を持つ作業療法士あるいは作業療法教員によってスーパーバイズされて評価される。スーパーバイザーが現場にいることは求めない。

スーパービジョンとは、スーパーバイザーが、学生の実践の質に対して、また、作業療法の受け手の安全に対して責任を負うという物で、学生の作業療法過程の実施を監視する過程をさす。スーパービジョンには、とりあえずは以下のことが含まれる。

- ・ 学生との話し合い
- ・ 学生の介入計画と記録の精査
- ・ 学生の行為の観察

学生がプログラムを進めていくにつれて、スーパービジョンの量と頻度は、そばに付いてのものから自立しての実践へと進行していく。スーパービジョンのレベルはまた、学生の知識基盤、実践場面に対する慣れ親しみ、そして、学生の学習のニーズ、他の保健専門職の在職／不在を含む実践の文脈、提供される作業療法の複雑さ、および作業療法を有効なものにするため求められる熟達のレベル、そして、学生と作業療法の受け手の両方に対する安全性のリスクに応じて変わるであろう。

1つの臨床実習地に配置される学生数は、提供可能なクライエントの数に比例したものになろう。

地域的文脈: その教育プログラムの中での臨床実習に配置された学生、臨床実習のスーパーバイザー、そして、教育者の役割と責任は明らかにされ、明瞭であり、その地域的文脈にとって適切なものである。学生および臨床実習スーパーバイザーは、それぞれの役割と責任を果たすために、きちんとした準備と支援を与えられる。

国際的観点: 臨床実習の経験は専門的サービスの提供に関する国際的期待によって情報を与えられる。すなわち、実践は理論と研究知見に導かれ、サービスは実践を含めてすべての人々に偏見なしに提供される。

質の改善: 臨床実習での学生の遂行の評価

- ・ そのプログラムの哲学や目的と学習契約と一致している
- ・ はっきりと明示されている
- ・ 学生のレベルにとって適切である

学生、新卒者、臨床実習スーパーバイザーおよび教育者の間のフィードバック体制が設けられ、臨床実習計画、準備および提供の継続的改善に情報をもたらしている。

教育施設と資源(資金提供を含む)

調和: 教育施設と資源は、そのプログラムの哲学や目的とうまく適合している。

例えば、身体的健康に対する条件を持つ人々に対するセラピーを提供する際の技能を持つ卒業生を輩出することを目指したプログラムの例では、通常、解剖学的モデルやリハビリテーション機器となる。不利な立場に置かれた住民に対する経済的に生活可能な就業という選択肢を展開することを強調するプログラムでは、学生が地域の仕事の場面やそこで行われる作業を経験する機会を求めるかもしれない。

深さと広がり: 入学する学生数は、教育者数に比例する。

有効で効率的な教育と学習を支援するために、図書資源、インターネットへのアクセス、教材、専門機器および資金提供を含む十分な資源がある。

充分で利用可能な教育スペース、教育者と補助スタッフのためのオフィス、特別な専門学習活動のための場および倉庫がある。

地域的文脈: 作業療法の受け手に使用される機器と治療的作業のための材料の例は、その地域の技術、経済、価値および地理に適合している。

国際的観点: 図書資源は常に更新され、インターネットへのアクセスによって支援される。そのプログラムには、すべての人々に均等機会を保証するために、学生やスタッフの採用や選抜の方針と手続きがある。

これには、人種、性、性指向性、健康状態、機能的能力、年齢にかかわらず、すべての人のためのインクルージョンと機会均等という方針が含まれよう。

質の改善: 設備と資源の継続的改善のための計画が設けられており、カリキュラム開発計画と一緒に貫している。

教育者

調和: 専門的背景、資格、経験を持つ教育者によって、そこで述べられている哲学と目的に適合した教育プログラムの提供が可能となる。

作業療法の理論とアプローチは作業療法士によって教えられる。

そのプログラムの学術的リーダーシップは、1人または集団の作業療法士によって提供される。

深さと広がり: 教育者の資格と経験の組み合わせが、カリキュラム内容とこのプログラムの中で使用される教育方法を支える。

教育者は、教える領域に優れていることを示し、また、そのプログラムの卒業者が受ける資格よりも高い、適切な資格を持っている。

教育、研究および管理という機能のバランスに取り組むスタッフの方針がある。

これには、社会と人間性に対するサービスであることに求められる事柄が含まれる。

地域的文脈: 教育者は実践の地域的文脈に関する知識を持っているか、あるいは、これにアクセスする。

これには適切な地域の作業、社会構造、文化的な信念と実践、健康のニーズおよび作業機会が含まれるであろうが、これらに限られるものではなく、また、これは、作業療法の実践と教育に影響を及ぼす健康、福祉、障害、教育制度、立法制度との関係の発展と維持に依存するであろう。

国際的観点: 教育者は国際的な作業療法、健康、障害、福祉、および教育の考え方と実践にアクセスする。

これは、専門的文献、客員教育者、国際会議、ネットワークなどによって成されよう。

質の改善: 教育者は自分の教育にとって適切な知識、技能、態度を絶えず維持し更新する。

これを達成するメカニズムには、国際的文献にアクセスすること、より上級の公的な資格を取得すること、講習会や学会、認められた専門家との国際協業に参加すること、研究に従事すること、作業療法士としての実践と作業療法士の実践のスーパービジョンを行うこと、客員専門家、学生のフィードバック、消費者による教育実践の批評評価からの学習などが含まれるが、これに限られるものではない。

実務を維持し更新する教育者を支援するメカニズムが設けられている。

学生関連事項

この最低基準は、学生が教育についてフィードバックする機会、プログラム概要の学生への提供、試験の時間割の明示といった学生関連事項の基準を含んでいない。その理由は以下の通りである。

- ・ これらが作業療法士教育に不可欠であるかどうかが明らかでない
- ・ そのような資源を作り出すことはそのプログラムのコントロールにはないかもしれない
- ・ どのような資源が学生に供給されるかは、文化特有の問題かもしれない

第4部 教育プログラムのWFOT認定

初回の認定

WFOTの教育・研究プログラム領域は、WFOTに入会申請する国々の教育プログラムの質の状態を評価することにかかわっている。この教育プログラム評価は、そのプログラムがこの基準に合致しているか、まさっている程度を決定するために、提出された証拠を検討することを中心に行っている。

WFOTに提出された資料は、計画中のプログラムや既存のプログラムが、WFOT最低基準をどれくらいきちんと満たしているかを、そのプログラムのスタッフによって実施された評価となる。その教育プログラムのカリキュラムを含む参考資料が追加される。

評価のためには、以下の3つの文書をWFOTに提出するよう求められる。

1. 下記のことについて取り組む地域的文脈の概観

- ・ そのプログラムに入学する学生
- ・ 地域の健康と福祉のニーズ
- ・ 健康をもたらす作業に関するその地域の観点
- ・ 地域の健康、福祉、障害、司法システムとサービス
- ・ 地域の作業療法史

2. 下記のことについて取り組むカリキュラム

- ・ そのプログラムの哲学と目的の説明
- ・ カリキュラムの内容と順序
- ・ 教育方法
- ・ 臨床実習
- ・ 教育施設と資源
- ・ 教育者

3. 新しいプログラムのカリキュラムは当初から、これらの最低基準の詳細部のすべてと一致しているとは期待していない。この第3の文書では、最低基準とのへだたり、および、あてはまる場合には、プログラムの質の改善という過程によって、これらのへだたりをどのように援助するかを明らかにし、説明する。

申請の処理と時間の詳細については、教育・研究プログラム領域のコーデネーターに連絡してほしい。連絡先の詳細は、WFOTウェブサイト <http://www.wfot.org> および <http://www.wfot.com> または wfot@multiline.com.au 電子メールで入手できる。

承認のための文書をWFOTへ提出する準備を支援する教育プログラムガイドラインは、2004年以降にWFOTウェブサイト上で公表される。

WFOT 最低基準に対する継続的モニタリング

会員国協会はひとたびWFOTの会員資格が与えられると、以下の事柄に対する責任を持つ。

- ・それぞれの国的新たなプログラムのWFOT認定
- ・WFOT最低基準に照らしての既存の教育プログラムの継続的モニタリング
- ・そのモニタリングの結果のWFOTへの報告

協会がその役割を果すのを支援するガイドラインは、2004年以降にWFOTウェブサイト上に公表されることになっている。このガイドラインを利用するかどうかは任意であり、各協会は、WFOT最低基準に照らして認定教育プログラムをモニタリングする独自の過程を開発してもよい。各協会はモニタリング過程の開発を独力で試みてもよいが、他の加盟国と共同で、地域のグループ内で、あるいは世界的な作業療法教育者の援助でそうしたモニタリング過程を開発することが勧められる。

各国協会のモニタリングの結果により、プログラムにかなり大きな変更を行う場合、その教育プログラムがこのことについて協会とコミュニケーションをとることが望ましい。

WFOTは、教育プログラムを5年または7年ごとにモニターするよう求めている。特定の国や特定の教育プログラムのモニタリングを5年サイクルとするか7年サイクルとするかは、その国の教育プログラムの典型的な期間に基づいて、各協会が決定する。

- ・卒業生が3年の教育プログラムを修了して実践に就けるところでは、5年のモニタリング・サイクルが通常適用される
- ・教育プログラムが典型的には4年間で、通常のカリキュラム検討の学術的サイクルが7年である場合は、7年毎のモニタリング・サイクルが通常適用される

WFOT基準に対する教育プログラムのモニタリングは、他の学術上の認定プロセスと共同で行ってもよいし、また、政府や教育制度に要求される他のモニタリング・プロセスに加えててもよい。

付録

付録1

文献

- アルマ・アタ宣言 (1978). <http://www.who.int/hpr/archive/docs/almaata.html>
- ボローニャ宣言 (1999). 欧州教育省連合・ヨーロッパ高等教育地域共同宣言
- カナダ作業療法士協会 (1998). カナダ作業療法士協会:大学認可基準および自己学習ガイド, オタワ: CAOT 出版 ACE.
- ヨーロッパ高等教育機関作業療法ネットワーク (2000). 欧州における作業療法教育:カリキュラムガイドライン, アムステルダム: ENOTHE.
- 国際連合. (1982) : 障害者に関する世界行動計画
- 国際連合. (1993) : 障害者の機会の平等に関する国連標準規則への決議
- 国際連合. (2002) : 子どもの権利条約
- 国連教育科学文化機構 (1995) : 高等教育の変化および発展のための政策文書
- 国連教育科学文化機構 (1998) : 21世紀高等教育世界宣言 その展望と行動. <http://www.unesco.org/education/wche/declaration.shtml>
- 世界医学教育連盟. (2001) : 基礎医学教育の質的改善. 世界医学教育連盟国際基準: デンマーク: コペンハーゲン大学
- 世界保健機関:カナダ保健福祉, カナダ公衆衛生協会 (1986) : 健康増進に関するオタワ憲章 オタワ: WHO.
- 世界保健機関 (1993) : 保健専門職教育の適切性の強化:保健専門職のための問題解決教育に関する世界保健機構研究グループの報告. ジュネーブ: Author.
- 世界保健機関 (1994) : すべての人々のための労働衛生に関する宣言. ジュネーブ: Author.
- 世界保健機関 (2001) : 機能, 障害および健康の国際分類. ジュネーブ: Author.
- Yerxa, E. J. (1998) : 作業:自己定義づけた専門職のためのカリキュラムの根本原理. *American Journal of Occupational Therapy*, 52 (5), 365-372.

付録2

用語集

態度 (*Attitudes*)

自分が、あることをどのように感じ、また、どのように行動するかということに影響を及ぼす何らかの事柄に関する考え方。例えば、作業療法における知識発展に対して積極的な態度を持つ作業療法士は、最新の研究知見に興味を感じ、作業療法関係の雑誌を読みがちになる。

首尾一貫性 (*Coherence*)

まとめあげられた要素が意味をなし、観念の間に矛盾がなく、要素が互いにどのように関係するかが明確に説明され、理解されることを意味する。

有能性、有能な実践 (*Competence, Competent Practice*)

安全で有効なやり方で行うよう求められることを行うことができることを意味する。

調和 (*Congruence*)

すべての要素が統合された全体の中へと一体になることを意味する。

継続的な質の改善 (*Continual Quality Improvement*)

そのプログラムが常に改良されていることを保証するために、学生を含む多様の情報源を利用して、教育プログラムの継続的な検討と改定のプロセスをさす。継続的な検討は、カリキュラムの定期的大改定に加えてなされる。

深さと広がり (*Depth and Breadth*)

深さとは、何かを十分に持っていること、あるいは何かをきちんと供給できることをさし、例えば、作業療法の特定の側面に関する豊富な知識があることや、何かを上手にできるほどに十分に知っていることである。広がりとは、何かがどれくらい遠くへと広げるか、あるいは、何かがどれくらい広いかをさし、例えば、作業遂行に影響する可能性があるものの全範囲を知っていることである。

教育戦略 (*Educational Strategies*)

教えることのために使われる異なった方法をさし、例えば、実演、講義、経験学習、あるいは問題基盤型学習などである。

臨床実習 (*Fieldwork*)

学生が、特定の人間-作業-環境の関係、およびそれらの健康と福祉との関係を解釈し、治療的・専門的人間関係を確立して評価し、作業療法の過程(あるいはその一側面)を実施し、専門的リーズニングと行動を実際にを行い、実際の生活している人々と共に、また、その人々のために専門的実践の文脈の知識を生み出し、あるいは用いることに費やす時間である。

卒業生 (*Graduate*)

本文書では、卒業生という用語は、その資格が資格認定、学士号あるいは修士号かを問わず、作業療法教育プログラムをきちんと修了した人をさす。

健康と福祉 (*Health and Welfare*)

「健康と福祉」という用語は、本文書の中で使用される健康の視点が健康の個人的で生物医学的視点よりも広いことを示している。これには、健康の主観的な経験、健康状態の存在や欠落、地域や住民の健康の維持と増進、および、人々の健康と福祉に影響する文化的・社会的要因を含んでいる。健康と福祉の概念は文化的に定義されるもので、その文脈によって変わるだろう。

健康をもたらす作業 (*Health Giving Occupation*)

短期あるいは長期にわたり、健康と良好な状態を増進するすべての作業。

知識 (*Knowledge*)

人が知っていることであり、物事について知っていることや、それを行う方法を知っているこ

とを含む。知識は、教育と同様に、経験によっても発達する。

作業療法士にとっての重要な知識の例としては、健康状態であることや作業療法を受けることの意味に関する知識、作業への参加を促進するためにどのように介入するのかに関する知識、そして、異なる介入の相対的な有効性に関する知識である。

学習契約 (Learning Contract)

学習契約は、学生が修得すべき特定の知識、技能、態度について、学生と臨床実習指導者との間や、学生と教育プログラムとの間に形成される合意である。それには、学生がその学習を達成したことをどのように示すのかということに加えて、学生と臨床実習指導者の教育者の役割と責任に関する合意も含まれよう。学習契約は、通常はその学習経験に先立つか、あるいは、その経験の初めに、協議される。

生涯学習 (Life Long Learning)

専門家はみな知識および専門の技能を生涯更新し続ける必要がある。生涯学習とは、常にもっと学習する必要を認識し、もっと学習することを希望し、関連する知識と技能を見出す技能を持ち、それらを理解し、実践に適用することを指す。

地域的文脈 (Local Context)

「地域的文脈」という用語は、健康福祉ニーズ、文化的バックグラウンドおよび健康福祉システムの特有の範囲を持つ、国全体、州あるいは個別の政治的地域のような地理的な領域を指す。この文書では、一つの都市、郡区あるいは小さな地区を参照することはまずない。

作業 (Occupation)

この文書では、作業という用語は、人々がすることで文化の中で意味のあるあらゆることを意味する。得られた見通しは、人々が作業に従事する場合、その成果が環境の影響を受けるということである。同様に、作業は環境に影響を及ぼす。作業は主観的に経験される。この文書では、作業という言葉に活動、仕事および職業的役割を含める。

ピアレビュー (Peer Review)

プログラムの外部において、教育、作業あるいは作業療法で認められた専門知識を持つ人が引き受けた教育プログラムを評価するプロセスをいう。ピアレビューの評価者は多くの場合他国出身である。ピアレビューの目的は、フィードバックまたは相談の申し出によりプログラムの継続的改良を支援することである。評価においては、プログラムの全体あるいはその選択された構成要素を扱ってもよい。

人間-作業-環境の関係 (Person-Occupation-Environment Relationship)

人々と、人々が行うこと、および人々がそれを行う文脈の間の表には現れない関係である。本質的な考え方は、作業の遂行は個人・環境の次元から影響を受けるとともに、それらに影響を及ぼすこと、そして、作業の遂行は作業の要求、および作業がどのように進んでいるかに影響を受けるということである。

哲学 (Philosophy)

何かの本質および意味を指し、たとえば、人々の平素の行動および振る舞いに内在する原理、および人々が経験する問題とそれに応答する方法に関する見解である。

この文書では、重要なのは作業に関する教育プログラムの哲学である。この作業の哲学は、作業の本質および意味、どのように、そして、なぜ人々が作業に従事するかに関する原理、作業に参加することに関して人々が経験する問題および満足の種類、作業への参加に関する問題がどのように扱われるか、そしてどのように参加の経験あるいは結果が強調されるかに関する文化的な理解を扱う。

哲学と目的は教育のプログラムの中心となり、プログラム設計、開発および公開の局面をすべて指導する。

目的 (Purpose)

人がしようとしていること、あるいはなろうとしているものを意味する。例えば、何が有用

か、あるいは関連するかを決める計画、設計あるいは意図である。

この文書では、教育プログラムの目的とは、卒業生が主として行うように準備された業務の種類、および卒業生が働くことができると予想される設定の範囲である。哲学と目的は教育のプログラムの中心となり、プログラム設計、開発および提供の局面をすべて指導する。

認定教育プログラム (*Qualifying Educational Programme*)

この用語は、作業療法士になるために各国で要求される資格を学生が獲得するための教育プログラムを指し、有資格作業療法士の知識および技能を増強する教育プログラムとは反対の意味を持つものである。

自省的実践 (*Reflective Practice*)

経験から最大の学習効果を得るために、自分の実践に関して系統的、日常的、批判的に考えることを指す。

技能 (*Skills*)

技能とは、何かをする能力を持っていることを指し、物理的に何かをする技能と考える技能がある。技能は通常、経験によって発達する。技能があるかどうかは、しばしば行っていることに関して知識が豊富かどうかに依存する。

付録3

作業療法士教育最低基準改訂版の第1案作成へご協力頂いた方々

このプロジェクトのために、惜しみない時間とアドバイスをいただいた全ての方々に、プロジェクト責任者のクレア・ホッキングとニルス・エリック・ネスより、感謝を申し上げます。当方への質問の回答は、ブレーンストーミング、フォーカスグループ、ディスカッション、Eメールによる回答など、様々な形を取っております。記録の範囲内で、ご氏名を同定できる方々を、以下にアルファベット順に記載いたします。なお、表記上の誤り、ご氏名不詳の方々には、お詫び申し上げます。

| | |
|--|--|
| <i>Markirit Armutlu, Canada</i> | リム・ホワ・バン, シンガポール |
| マーキリット・アームツル, カナダ | |
| <i>Professor Sheila Banks, Canada</i> | <i>Julie Jobain, Canada</i> |
| シェイラ・バンクス教授, カナダ | ジュリー・ジョバイン, カナダ |
| <i>Sue Baptiste, Canada</i> | <i>Jennifer Jumoorty, Canada</i> |
| スー・バプティースト, カナダ | ジェニファー・ジュモーティ, カナダ |
| <i>Michele Bleau, Canada</i> | <i>Sarah Kantarzis, Greece</i> |
| ミシェル・ブル, カナダ | サラ・カンタージス, ギリシャ |
| <i>Dr. Bette Bonder, USA</i> | <i>Daniel Kariuki, Kenya</i> |
| ベト・ボンダー博士, 米国 | ダニエル・カリウキ, ケニア |
| <i>Professor Sharon Brintnell, Canada</i> | <i>Astrid Kinebanian, Netherlands</i> |
| シャロン・ブリンネル教授, カナダ | アストリド・キネバニアン, オランダ |
| <i>Hanneke van Bruggen, the Netherlands</i> | <i>Nicol Korner-Bitensky, Canada</i> |
| ハネケ・ヴァン・ブラッゲン オランダ | ニコル・コーナー・ビテンスキー, カナダ |
| <i>Clara Carpintero, Canada</i> | <i>Katerina Kovacevich, Canada</i> |
| クララ・カーピンテロ, カナダ | キャタリナ・コバセビッチ, カナダ |
| <i>Marie Chester, New Zealand</i> | <i>Rainer Kulker, Germany</i> |
| マリー・チェスター, ニュージーランド | レイナー・カルカー, ドイツ |
| <i>Suzanne Clouthier, Canada</i> | <i>Barbara Lavin, Palestine-Jordan</i> |
| スザンヌ・クラウチエ, カナダ | バーバラ・ラビン, パレスチナヨルダン |
| <i>Des Connor, Canada</i> | <i>Irene Ling, Canada</i> |
| デ・コナー, カナダ | アーレーン・リング, カナダ |
| <i>Rosemary Crouch, South Africa</i> | <i>Jin-Ling Lo, Taiwan</i> |
| ローズマリー・クラウチ, 南アフリカ | ジン・リン・ロウ, 台湾 |
| <i>Professor Karin Garzon Diaz, Colombia</i> | <i>Dr. Helen Madill, Canada</i> |
| カリン・ガーゾン・ディアス教授, コロンビア | ヘレン・マディル博士 カナダ |
| <i>Gail Dick, Canada</i> | <i>Sheila Maislin, Canada</i> |
| ゲイル・ディック, カナダ | シラ・メイズリン, カナダ |
| <i>Sylvia Cristina Duarte, Colombia</i> | <i>Fiona McIntyre, Canada</i> |
| シルヴィア・クリスティーナ・ドワルテ, コロンビア | フィオナ・マッケンタイヤ, カナダ |
| <i>Sharon Eadie, Canada</i> | <i>Claudia Munoz Masini, Chile</i> |
| シャロン・エディ, カナダ | クラウディア・ムニョス・マッシーニ, チリ |
| <i>Emily Etcheverry, Canada</i> | <i>Cindy McLean, Canada</i> |
| エミリー・エチベリー, カナダ | シンディ・マックリーン, カナダ |
| <i>Professor Aleida Fernandez, Colombia</i> | <i>Paula Meredith, Australia</i> |
| アレーダ・フォナンデス, コロンビア | ポーラ・メラディス, オーストラリア |
| <i>Marion Fondrige, Canada</i> | <i>Christa Meyer, South Africa</i> |
| マリオン・フォンドルガ, カナダ | クリスタ・マイヤー, 南アフリカ |
| <i>Gunner Gamborg, Denmark</i> | <i>Sylvana Moreau, Canada</i> |
| グンナー・ガンボーグ, デンマーク | シルヴアナ・モロウ, カナダ |
| <i>Paula Glazer, Canada</i> | <i>Josee Moyen, Canada</i> |
| ポーラ・グレイザー, カナダ | ジョシー・モエン, カナダ |
| <i>Barb Granger, Canada</i> | <i>Justine Nanyonjo, Uganda</i> |
| バーブ・グレインジャー, カナダ | ジャスティーン・ナンヨンジョー, ウガンダ |
| <i>Enrique Henny, Chile</i> | <i>Ryutaro Nagatani, Japan</i> |
| エンリケ・ヘニ, チリ | 長谷龍太郎 日本 |
| <i>Rona Howard, Britain</i> | <i>Bernadette Nedelec, Canada</i> |
| ロナ・ハウード, 英国 | ブナデッド・ネデレク, カナダ |
| <i>Lim Hua Beng, Singapore</i> | <i>Tanya Packer, Hong Kong</i> |
| | タンヤ・パッカー, 香港 |
| | <i>Mary Pesco, Korea</i> |

| | |
|--|---|
| メアリー・パスコ, 韓国 <i>Barbara Piskur, Slovenia</i> | ローリー・スナイダー, カナダ <i>Carolyn Storr, Canada</i> |
| バーバラ・ピスクル, スロベニア <i>Candace Plouffe, Canada</i> | キャロリン・ストラー, カナダ <i>Beverka Tallant Canada</i> |
| キャンディス・プルフ, カナダ <i>Joanne Pratt, Scotland</i> | ベビエルカ・タラント, カナダ <i>Liliana Tenorio, Colombia</i> |
| ジョアン・プラット, スコットランド <i>Antonieta Rivas de Puche, Venezuela</i> | リリアナ・テノルヨ, コロンビア <i>Aliki Thomas, Canada</i> |
| アントニエタ・リバス・デ・プーチェ, ベネズエラ <i>Betsy Ranslow, USA</i> | アリキ・トーマス, カナダ <i>Ulla-Maija Tormala, Finland-Estonia</i> |
| ベツツイ・ランズロー, 米国 <i>Dorothy Schwab, Canada</i> | ウラ・マイヤ・トルマーラ, フィンランド-エストニア <i>Dr. Elizabeth Townsend, Canada</i> |
| ドロシー・ショワーブ, カナダ <i>Alice Sebastian, Canada</i> | エリザベス・タウンセンド博士, カナダ <i>Louise Tremblay, Canada</i> |
| アリス・セバスチアン, カナダ <i>Barbara Shankland, Canada</i> | ルイーズ・トレンブレイ, カナダ <i>Madeleine Trudeau, Canada</i> |
| バーバラ・シェンクランド, カナダ <i>Madeleine Shaw, Canada</i> | マデリン・トルドウ, カナダ <i>Linda Wilson, New Zealand</i> |
| マドレン・ショー, カナダ <i>Estelle Shipham, South Africa</i> | リンダ・ウィルソン, ニュージーランド <i>Matthew Yau, Hong Kong</i> |
| エステル・シハム, 南アフリカ <i>Kit Sinclair, Hong Kong</i> | マシュー・ヤオ, 香港 <i>Kwok-tak Yeung, Taiwan</i> |
| キット・シンクレア, 香港 <i>Laurie Snider, Canada</i> | クワク・タク・ユン, 台湾 |

付録4

作業療法士教育の改訂版最低基準の第1草案への財政支援を頂いた方々

以下の個人、団体、組織によって寄せられた多大なる財政的貢献に対して、世界作業療法士連盟より厚く御礼申し上げます。以下の方々の援助なしには、WFOT基準を改定し、支援の手続きを整備し、文書化するためのプロジェクトを完成することは出来なかつたであろう。

寄贈者一覧（カナダドル）

100ドルー499ドル

オーストラリア教育プログラム
ダルフジ大学、カナダ
ホゲスクール・ヴァン・アムステルダム、オランダ
アイスランド作業療法士協会
WFOT教育・研究プログラム責任者 キット・シンクレア
メクマスター大学、カナダ
フィリピン作業療法士協会
ROC台湾 ROCリハビリテーション医学学校

300ドルー499ドル

オーストラリア作業療法士協会
ニュージーランド作業療法士協会
オタゴ ポリーテクニック、ニュージーランド
ブリティッシュコロンビア大学、カナダ
作業療法士 サウスカロライナ大学学生、米国

500ドルー999ドル

デンマーク作業療法士協会
ヨーロッパ高等教育機関作業療法ネットワーク (ENOTHE)
スウェーデン作業療法士協会
アイルランド作業療法士協会

1000ドルー4999ドル

オークランド工科大学 ニュージーランド
英国作業療法士教育指導委員会
日本作業療法士協会
ノルウェー作業療法士協会
スール=トロンデラーグ大学 ノルウェー
スイス作業療法士学校協会と委員会

10,000ドルー15,000ドル

カナダ作業療法士協会

付録 5

作業療法士教育の改訂版最低基準の第1草案に対してご意見を戴いた方々

原案に対してご意見をいただいた個人と団体に対して、このプロジェクト責任者のクレア・ホッキングとニルス・エリック・ネスより感謝いたします。お寄せ戴いたご意見のおかげをもちまして、当報告書の全体的な質と明快さが保証されました。国ごとに、アルファベット順で、以下に記載いたします。

オーストラリア

- ・クイーンズランド大学作業療法学科 ロジャー博士、ズィヴィアーニ博士、ストロング博士・マッケナ博士
- ・前WFOT会長 キャロリン・ウェブスター

ベルギー

- ・ベルギー作業療法養成校連盟を代表して、WFOT代表 デレゲイト・クレア・ヴァレンティン

カナダ

- ・作業療法専門家カナダ協会、ドナ・クライマン
- ・西オンタリオ大学作業療法学校
- ・WFOT代表 アン・カーズウェル

フィンランド

- ・ウル・ポリテクニック、作業療法学科、ウラマイija・トーマラ

フランス

- ・ボルドー作業療法学校、エルゴテラピー設立研究所、マリー・シャント・モレル

ドイツ

- ・ドイツ作業療法士協会、ピーター・ジョン

香港

- ・香港工芸大学、WFOTプログラムコーディネーター、キット・シンクレア

イスラエル

- ・ヘブライ大学、作業療法学部、ミシェル・ラベア

イタリア

- ・ミラノ大学、作業療法士学部、WFOT代表 ジュリー・ピエグロッシ

日本

- ・日本作業療法士協会、教育委員会、WFOT代表 佐藤剛

メキシコ

- ・インスティテュティオ・ド・テラピア・オクパシオナル、メキシコ市、クリスティーナ・H・バラナ

オランダ

- ・オランダ作業療法専門家協会および作業療法オランダ学校、WFOT代表 ピア・バン・ボーデゴム

ニュージーランド

- ・オークランド技術大学、作業療法学部、ヴァレリー・ライト St. クレア、ナンシー・ラ

イト, キーク・リード&エレン・ニコルソン

・ニュージーランド作業療法専門家協会, グレン・パークレイ&ゲイル・モルダー

・オタゴ工芸作業療法学校, リンダ・H・ウィルソンとその研究チーム

ノルウェー

・トロムソ大学, 作業療法学部, リブ・ヴィク

フィリピン

・フィリピンマニラ大学作業療法学部, コンセプション・C・キャバタン

南アフリカ

・ケープタウン大学作業療法専門家部門代表, ルス・ワトソン

・プレトリア大学作業療法学部, 学部代表キティ・ウイス

・WFOOT第2副会長ローズマリー・クローチ

英国およびアイルランド共和国

・英国とアイルランド共和国作業療法教育指導者委員会, レミィ・R・レイズ

・前WFOOT会長バーバラ・タイルデスレイ

・英国作業療法協会/作業療法大学, イレーネ・イロット, ヘレナ・カルショー, シーラフ・リチャード

・サルフォード大学, 作業療法指導者, ジャッキー・テイラー

・サウサンプトン大学, 作業療法学部, ミシェル・カーティン

・WFOOT代表 ジュディ・ブリッジ

・WFOOT名誉秘書クレファン フューム

米国

・ミシガン州ミシガン湖大学作業療法専門家助手プログラム, マーサ

・ナンシー・ブレイク

・WFOOT代表テリー・クロウ

ベネズエラ

・WFOOT代表アントニエタ・リバス・ド・プチエ, フランシスカ・ザンモラ&カルメン・

ド・ジタ

付録6

作業療法士教育の改訂版最低基準の第1草案に寄せられたご意見

5領域の能力がよく分類されており、有意義である。このような草案形式でも、カリキュラムについてのわれわれの新しい見直しが十分に伝わってくる。

シルビア・ロジャー、ジェニー・ズィヴィアーニ博士、ジェニー・ストロング&クリス・マッケナ オーストラリア

この新しい最低基準についての報告書全体に熱意が感じられる。この報告書は、補遺1の発展と思想、そして、それが教育プログラムのなかで実践される方法と対応している。

クレア・ヴァレンティン、ベルギー

この素晴らしい仕事をされたWFOTにお祝いを言いたい。これからも頑張ってください。とくに作業について十分説明されており、また関連する作業の背景についても整理されているので、これからは、この報告書が私たちの仕事にとって中心的なものになってゆくと思います。

セルマ サムション カナダ

この作業療法士の最低基準修正原案を愉しく読み、感動しました。あなた方は、この難しい仕事を引きうけられ、WFOTのさまざまな教育プログラム全般に関わる応用可能なものにされたこと思います。

アン・カーズウェル、カナダ

わたしはこの報告書に非常に感動しています。これが今後グローバルな基準となって、全世界の作業療法士の役に立つことと思います。おめでとうございます。

ドナ・クライマン、カナダ作業療法専門家協会、カナダ

この文書はすばらしいし、興味深い必読文書だと思う。

ウラマイジャ・トーマラ、フィンランド

この改訂版最低基準は基準設立への真の前進を意味していると思います。つまりプロフェッショナルによる「合理化された」バージョンです。お祝い申し上げます。

ピーター・ジョン、ドイチャ・ベアバンツ・デア・エルゴーテラピュートン、ドイツ

この新しい報告の重要性に感銘を受けました。今後数年間、改革を推進する主導的な力となるでしょう。さぞかし大事業だったことでしょう。国際的な視野を見据えており、現場におけるWFOTの役割に新たな活力を与えていると思います。

キット・シンクレア、香港

素晴らしいお仕事にお祝いを述べさせてください!

ミシェル・ラベア, イスラエル

まず、おめでとうございます—素晴らしいお仕事に対して。全てを読んだだけではなく、ミラノ大学のカリキュラムを準備する上でこれを利用させていただきました。

ジュリー・ピエグロッシ, イタリア

作業療法への新しい考え方を反映し、新しいプログラムを発展させるうえで非常に有効となるであろう、この報告書の全ての寄稿者にお祝いを述べたいと思います。

クリスティ・ボラノス, メキシコ

この新しい報告書から、ガイドラインがどのように構築されるかについて新しい見方を示している。読みやすいだけでなく、世界における作業療法についての技術の現在の状態を反映している。この報告書は非常に総合的であり、素晴らしいことに、医療と職業に対する国内の関心が新しいカリキュラムを発展させる上で最も重要な点のひとつであることを気付かせてくれる。

ピア・バン・ボーデゴム, オランダ作業療法士協会とオランダ作業療法プログラム, オランダ

この報告書は完全で、十分に検証されており、また、作業に焦点を当てているのが素晴らしいです。

グレン・バークレイ & ゲイル・モルダー, ニュージーランド作業療法士協会, ニュージーランド

…作業療法教育についてのわたしたちの基準を見なおし修正するための膨大な仕事に対して、あなた方とプロジェクトチームに拍手を送らせてください。

コンセプション・カバタン, フィリピン

素晴らしい仕事をされたと思います。

キティ・ウイス, 南アフリカ

一般的なアプローチにのみならず、改訂版の最初の草案で紹介されている考え方に対する興奮しています。前のものとは非常に変わったのを見て勇気付けられます。従来のものからここまで大胆に踏み出されたことにお祝い申し上げます。

R.M.ワトソン, 南アフリカ

あなた方の、全世界を念頭に置いたうえでの、完璧さ、工夫、さまざまな概念の非常に今日的な更新に圧倒されました。大変感謝しています。それは本当に大きな仕事です。

ローズマリー・クローチ, 南アフリカ

作業療法教育主事の諮問委員会が WFOT のガイドラインの検討を全面的に支持し、多くの改革の検討について賛同をしめしたことは特筆に値する。ガイドラインは近代的な国家の作業

療法教育のプロセスを明らかに反映していると同時に、他者が、よりふさわしい、柔軟なやり方で、それぞれの基準を発展させる機会を与えていた。世界中のプログラムに共通する眼目は、「作業的」であり続けるべきだ。それは、この報告書によって明らかにかつ綿密に表されている。報告書は、世界中のプログラムがより創造的で柔軟になるための方法を理想的に地図めし、現地調査の位置付けによって理解されるものを示している。

レミィ・R・レイズ、英国とアイルランド共和国 職業的教育委員会 監督

全体として、改訂版最低基準を歓迎する。論理的な組織によって書かれていると思う。内容は今日的であり、現在の実践や教育、とりわけ、実証的な実践を強調や、地域的な背景と個々に合わせたアプローチに実証への理解を反映している。

イレーネ・イロット、ヘレナ・&リチャード、作業療法専門家 英国

最低基準の修正について、なんと素晴らしい仕事を成し遂げられたことか。全体的に、あなた方によって示されたものは、明白で、論理的で、さまざまな状況に適切であると思います。

マイケル・カーティン、英国

私の見たかった一覧表が、全てありました。

クレファン フューム、WFOT 名誉秘書

この最低基準の修正原案を拝読して、業績に非常に感銘を受けました。丁寧なご説明、有難うございました。

ナンシー・G ブレイク、米国

業績を誇りに思うべきです。

テリー・クロウ、WFOT 代表、米国

教育プログラムの認定手続

PROCESS FOR APPROVAL OF EDUCATIONAL PROGRAMMES

クレア・ホッキング(Clare Hocking)、ニュージーランド代表
ニルス・エリク・ネス(Nils Erik Ness)、ノルウェー第1代表代理
2004

世界作業療法士連盟
電子メール : wfot@multiline.com.au
ウェブサイト : <http://www.wfot.org/>

| | |
|--|---|
| クレア・ホッキング ニュージーランド作業療法士協会代表 オークランド工科大学作業療法学科主任講師 | ニルス・エリク・ネス ノルウェー作業療法士協会第1代表代理 Sør Trøndelag 大学准教授 |
|--|---|

目 次

はじめに

WFOT 認定手続の目的

現行の認定の目的

他の評価や再認定の手続

認定手続の原則

本文書の内容

認定手続の開発経過

本企画に対する支援

WFOT 認定のための提出物の準備

教育プログラム認定における WFOT の役割と責任

WFOT 認定が必要な場合の各協会の役割と責任

WFOT 認定を求める教育プログラムの役割と責任

認定手続の概要

提出の時期と言語

提出物の内容

WFOT への文書の提出

WFOT のプログラム認定手続

審査の手続

時間の枠組み

プログラム審査委員

プログラムの審査手続

追加情報の請求

教育プログラムに関する合意に達すること

第一次草稿：プログラムへの勧告と WFOT 認定

最終報告：プログラムの認定報告と WFOT の意見

再提出と不服申請の手続

WFOT 養成施設リストへの登録

他のプログラムの再認定と認定

当該国の協会による認定と再認定の手続

WFOT 認定手続の利用

再認定の頻度

協会とプログラム間のコミュニケーション

WFOT プログラム審査報告書様式

用語集

付録 1. 参考文献

付録 2. 本文書の第一草稿にフィードバックを寄せた協会及び教育プログラムの一覧

はじめに

WFOT 認定手続の目的

世界作業療法士連盟（WFOT）の定める作業療法士教育最低基準を満たす教育プログラムがあることは、WFOT の会員国になるために必要な条件である。この WFOT 認定手続の目的は WFOT の会員国になろうとしている国にそのようなプログラムがあるかどうかを決定することである。WFOT の意図は、教育プログラムを評価し、それらが WFOT 最低基準を満たしているかどうかを決めるためにきわめて明確な手續が存在するということである。

認定手續が首尾一貫しており、かつ、公平であることを確實にするために、以下に詳しく説明する。

現行の認定の目的

WFOT 会員国との資格を維持するための必要条件は、WFOT 作業療法士教育の最低基準 [以下、最低基準] を満たしている少なくとも 1 つの教育プログラムが存続することである。最低基準を満たしている少なくとも 1 つのプログラムが自国にあることを確認することは、その WFOT 会員国協会の責任である。各協会は、プログラムが最低基準を満たしているかどうか自由に決定することができる。WFOT の規定には、加盟国内の全てのプログラムが WFOT 最低基準を満たしていることとはされておらず、WFOT 認定を求めないことを選択するプログラムがあるかもしれない。

WFOT 会員資格との関係におけるその目的と同様に、ある国では、セラピストがその国で登録申請する資格を持つためには、WFOT 認定教育プログラムで資格を得るよう求めている。WFOT は、この点に対しては管轄権を持ってはいないものの、卒業生のためにこの成果を達成することが、WFOT 認定を求める教育プログラムに大きな動機づけとなっていることには注目している。

他の評価や再認定の手続

教育プログラムが WFOT 認定を得る方法は、他の組織によって課せられている公認、緩和措置、監視といった手續とは目的が異なるために、それらとは区別される事柄である。

例えば、ある大学が学位授与のプログラムであることを証明するためには、制度的あるいは政府の要件を満たしていることを証明する必要があるだろう。登録機関は、その教育プログラムが登録資格のある卒業生を輩出することを示すよう求めるであろう。他の検討の手續が、その教育プログラムの継続的発展に寄与するフィードバックを創出するように計画されているであろう。国によっては、プログラムが WFOT 最低基準に加えて必要条件を満たしていることを確認するために、専門職の協会が認定の手續を実施することがある。

WFOT 認定手續は書面による調査に基づくものである。他の手續として、現場の訪問、あるいはピアレビューを含むことがある。

認定手続の原則

WFOT は、最低基準に照らして作業療法士の教育プログラムを評価する手續が、その(ブ

ログラムの）長所を示し、その短所にどのように取り組むかを示せるようにする、という意図を持っている。それは、全ての教育プログラムが、健康と福祉のニーズ、知識、テクノロジー、教育理論および教育資金提供方針の変更と歩調を合わせて教育実践を絶えず改善し続ける必要があるという信念に基づいている。

WFOT はまた、この認定手続がプログラム間の協力関係を支援するという意図を持っている。これが重要なのは、最低基準の大部分を上回っている場合ですら、いくつかの基準を満たしていない可能性があるからである。他校との協力関係を通してプログラムは支援を受けることができ、また、継続的発展を刺激し導くような新しい考えを創り出すことができる。

最後に、WFOT は認定手続が非公開でなされるものと考えている。すなわち、草稿および最終報告書だけでなく、当該プログラムまたは協会からもたらされたその教育プログラムに関する情報は、極秘として扱われる。これらの文書は、通常はプログラムの審査委員、審査に何らかの形で関与する WFOT 教育研究委員会の委員、WFOT 教育研究委員会の委員長、そして、各国の協会と教育プログラムに対する最終報告書の作成に援助が必要な場合は WFOT 事務局のみが入手を許されている。認定に関する決定を不服とする場合、全ての文書は WFOT 理事会が入手できるようにされる。

本文書の内容

本文書は 3 部から成る。各部の特徴と目的の概要を以下に示す。

WFOT 認定のための報告の準備

この部分は、WFOT 会員資格の申請の一部として WFOT に提出される教育プログラムに関する公式文書を作成する過程を説明するものである。ここでは、報告書に含まれるべき事項、公式文書のまとめ方などに関して詳しく説明している。

WFOT プログラム認定の手続

この部分は、WFOT が教育プログラムに関する文書をどのように検討するのかを説明している。それには、プログラムの審査委員が考慮する事柄と、会員国になることを求めている協会にフィードバックを提供し、認定に関する決定をする手続が含まれている。

WFOT 認定手続を用いる各国の協会

この部分は WFOT の会員である協会が、新しいプログラムを認定し、既設のプログラムを再認定するために、WFOT 認定手続をどのように用いるのかを説明している。

認定手続の開発経過

この公式文書の第一次草案は、著者がニュージーランドのオークランドで 1 週間にわたる会議を開催して作成された。この草案は、まず、フィードバックを得るために WFOT の理事に回覧され、次に、WFOT のウェブサイトに掲載された。WFOT 教育研究委員長、会員国協会、代表は、この草案がウェブサイト上に掲載されていることを電子メールで通知され、フィードバックを求められた。プログラムコーディネーターと WFOT 会員国協会合わせて 23 の団体がフィードバックを提出した。それについては、付録 2 を参照され

たい。

第二次草案は、2004年4月26日から30日にケープタウンで開催された2004年度代表者会議の直前に、著者によって書かれた。これは代表者会議に提出され、編集上のわずかな変更と会議で提出された勧告を取り込むことで承認された。

本企画に対する支援

本認定手続の開発は、世界作業療法士連盟の教育研究委員会の企画の1つとして実施された。オークランド工業大学、Sør Trøndelag大学、ノルウェー作業療法士協会は、これらの著者達が本企画を実施するために通常業務から離れることを承認することにより、本企画を支援してくれた。オークランド工業大学は、最初の会議を主催してくれた。

世界作業療法士連盟は「作業療法士教育最低基準」の改訂に対して寄せられた寄付のうちから、財政援助を提供してくれた。

WFOT 認定のための提出物の準備

教育プログラム認定における WFOT の役割と責任

WFOT 教育研究委員会は、WFOT 会員国の中の資格申請の一部として、ある教育プログラムが WFOT 最低基準を満たしているかどうかを審査するという責任を担っている。この審査は、提出された公文書の調査に基づいてなされる。

教育研究委員会委員長の責任は、WFOT プログラム審査委員を指名すること、委員の審査が公平で、対費用効果がよく、かつ迅速であるように保証することである。

ひとたびそのプログラムが認定されたならば、WFOT 事務局は WFOT ウェブサイト (www.wfot.org) 上のプログラム一覧表を更新する責任がある。

WFOT 認定が必要な場合の各協会の役割と責任

WFOT の会員資格を求めている国の協会は、審査のために提出されるべき公文書を準備するために、責任を持って教育プログラムを支援する。

WFOT 認定を求める教育プログラムの役割と責任

WFOT の認定を求める教育プログラムの責任は、自己評価に関して支援を要請できる他の教育プログラムを明らかにして依頼することと、WFOT への提出文書を準備することである。

認定を求めるプログラムは、WFOT への提出文書がこの公式文書に概要を示す必要条件にかない、そして、その内容が真実で正確であることを確実にしなければならない。

自己評価を仕上げるためにプログラムを支援することに同意する他のプログラムは、WFOT 作業療法士教育最低基準を十分に理解することに責任を持ち、さらにその地域の背景状況を理解する必要がある。これによって、提供される支援がその地域の文脈に適合し、それを尊重したものとなる。この協力関係は継続されることが望ましい。

認定手続の概要

ここで説明する認定手続は、WFOT 非加盟国の教育プログラムが作業療法士教育最低基準を満たすかどうかを審査するために、WFOT によって用いられるものである。最低基準を満たす少なくとも 1 つの教育プログラムが存在することは、WFOT 会員資格を得るための必要条件の 1 つである。この文書では、OT 協会のあることが WFOT の会員資格を得るために必要な条件でもあるため、教育プログラムの認定を申請する非会員国には既に作業療法士協会があると仮定している。

認定手続全体については、図 1 に描かれており、以下の事柄を含んでいる。

1. 準備

- ・「新たなプログラムの設置に対する勧告」という題名の WFOT 出版物を参照すること
- ・この期間に、当該プログラムは、WFOT（及び以下の節で言及される他の機関）への提出文書作成に関して協力に同意したその国の作業療法協会（もしあれば）や他の教

育プログラムと密接に協力する。

- ・当該プログラムは、関連する情報を収集し、提出物に含む公文書を作成する。

2. 提出物（本文書中の「提出物の内容」の節を参照）

- ・地域の背景状況の説明

- ・プログラムのカリキュラムに関する文書：これには卒業生の能力を含むこと。また、その文書には含まれていないが、WFOT 最低基準のどの領域であれ、取り組む必要がある内容を示した他の資料。

- ・自己評価報告書：この文書には、プログラムの実践している事項と保有する資源で、WFOT 作業療法士教育最低基準を満たすかそれ以上のもの、および、最低基準を満たしていないと判明した事項と資源を明記すること。さらに、各々の影響を明記すること。

- ・各国の協会は、電子メールか 4 部のコピーをとり、添え状とともにそのプログラムの提出物を WFOT に送付する。

3. プログラムの審査（本文書中の「WFOT のプログラム認定手続」を参照）

- ・WFOT プログラム審査委員は、最低基準に照らして、その提出物を審査する。

- ・WFOT プログラム審査委員は、そのプログラムに対して、さらに詳しい情報や説明を求めことがある。

- ・WFOT プログラム審査委員は、そのプログラムの改善のための勧告を含め、そのプログラムに関する報告書の原案を準備する(本文書の末尾に示す「WFOT プログラム評価報告様式」を参照)。完成した原案は、当該の協会と教育プログラムの意見を求めるために送付される。

- ・当該の協会とプログラムは、報告書原案について検討し、返答する。

- ・WFOT プログラム審査委員は、WFOT 教育研究委員長に対して、最終報告書を完成させる。

4. 勧告と認定

- ・WFOT 教育研究委員長は、認定に関する勧告を作成する。

- ・委員長が認定を勧告した場合、その教育プログラムは批准のために WFOT 理事会に提出され、そのプログラムの情報は WFOT のウェブサイト (www.wfot.org) に掲載される。

5. 非認定

- ・その教育プログラムが認定されない場合、後日新しい申請書が提出されることになる。

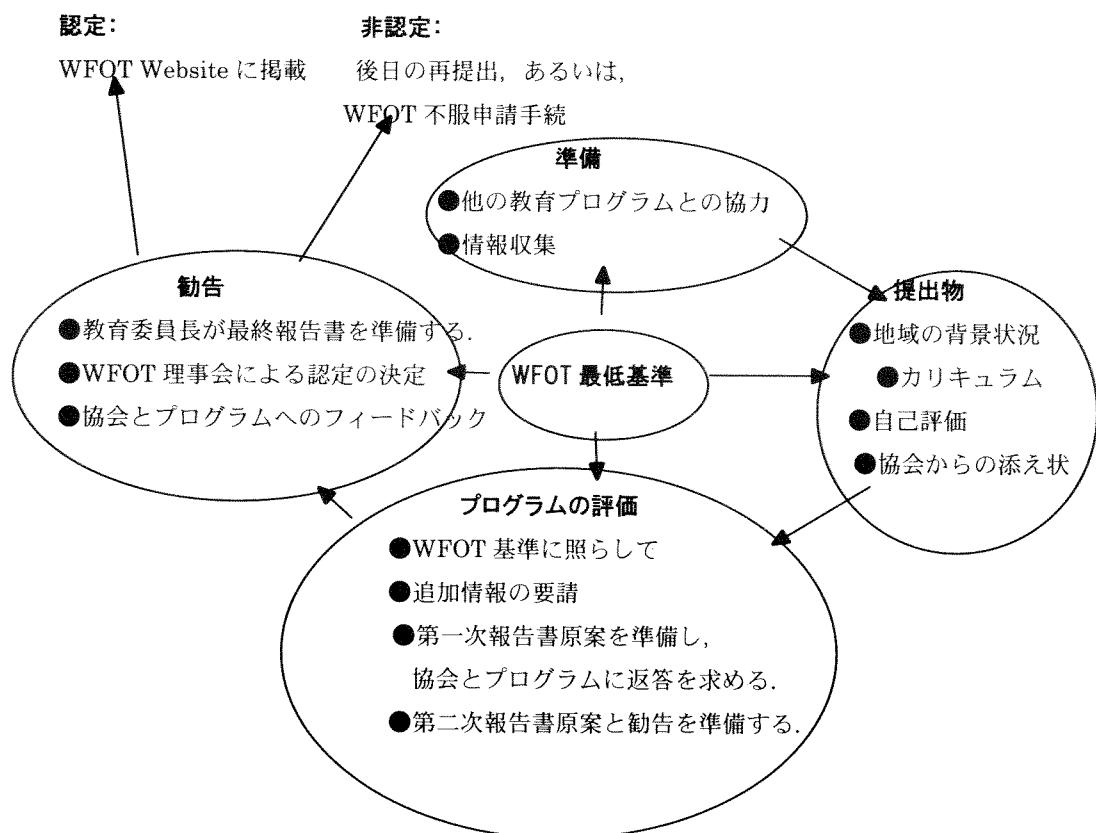
6. 不服申請

- ・そのプログラムが WFOT 理事会に認定されない場合、認定を求める不服申請をすることができる。

- ・不服申請が認められない場合、そのプログラムは、一層の改善に努めた後に、再提出することができる。

プログラムには通常提出書類のある部分について説明を求められることに注意するのは重要である。これは、認定手続の終了までには 1 年以内の期間がかかるかもしれないこと、あるいは、この手続がそのプログラムの発展につれて時間をかけて展開することを意味する。

図1:非加盟国における教育プログラムのWFOT認定



提出の時期と言語

1. プログラムの認定申請は、最初の学生の入学に先だってなされることもある。この申請によりプログラムは、最初の学年の卒業前に認定過程からのフィードバックに回答する機会を与えられる。
2. 提出文書は、一般に英語で書かれるであろう。プログラムが別の言語で文書を提出したいと希望する場合、そのことを教育研究委員長と交渉する必要があろう。最終決定は、担当する審査委員の言語能力に基づくことになる。

提出物の内容

教育プログラムがWFOTに提出するために作成する資料は、別々の3つの文書から成る。WFOTの意図は、これらの文書が簡潔で、要領を得たものにするということである。それらは、その教育プログラムの開設と供給に影響している最も重要な事柄だけを確認するべきであり、また、時間とともにその発展に影響すると予想される事柄を確認すべきである。

プログラムは、何を報告するべきかに関する決定をするために、WFOT作業療法士教育最低基準を注意深く検討するとよいだろう。プログラムを支援するために、最低基準のうち関連する部分がこの文書の中で明らかにされている。

どのような場合でも、その教育プログラムに影響している情報の出所が明確にされなければならず、参照のリストの中に含まれなければならない。これには、ウェブサイト、政

府の公文書と方針、他の公文書、法律が含まれるであろう。地域の作業の知識、あるいは、地域の健康と福祉に関する知識の資料である場合には、人と組織も含まれることがある。十分に詳細な説明がなされると、審査委員が必要であると判断した場合に、ウェブサイト、公文書、部門、言及されている組織にアクセスできる。文書が明らかな場合には名称を付け、発行者・発行日を記入しておく必要がある。さらに、その教育プログラムが情報にどのようにアクセスするか、どのくらいの頻度でアクセスするかを確認する必要もある。例外的な状況にある場合、支援のための文書あるいは文書の抜粋が報告書に添付されることもある。

文書 1: 地域の背景状況

この文書は、学生の入学選考、カリキュラムの内容と年次配置、教育方法、臨床実習、そのプログラムの施設設備と資源に強く影響を及ぼしている地域の様々な背景に関する情報を提供する。地域の状況をすべて細々と説明する必要はない点に留意してほしい。プログラムを設立する上で非常に影響力があった側面のみを記載する必要がある。

WFOT 最低基準の第 2 部で説明しているように、考慮する必要がある地域の様々な背景には、そのプログラムに入学する学生、地域の健康と福祉のニーズ、地域の健康をもたらす作業、地域の保健、福祉、障害、および法制度、そして、地域の作業療法の歴史がある。この文書は 5 ページ (1750 語) 以内に収め、関連資料（添付しない）である。

地域の背景の報告には、以下の事柄を含むことになろう。

1. プログラムに入学する学生
 - ・学生自身に関するすべてのことと、プログラムに入るためのレディネスに影響する入学前の経験
 - ・学生がプログラムに入学する際の教育経験と学業上の資質、およびその地域に住む人々と仕事をする場合の適性
 - ・プログラムに入学することができる学生に影響を及ぼす政策と慣例
2. 地域の保健と福祉のニーズ
 - ・プログラムに最も影響する健康と福祉のニーズ
 - ・プログラムがこれに関して情報を得る場所と、それが更新される頻度と更新者。
3. 地域の作業の見方
 - ・この地域の人々が一般に健康をもたらすと考えている作業と、一般に健康を害すると考えている作業
 - ・この情報を得る方法と場所
 - ・この情報がプログラムにどのように影響を及ぼしているか。
4. 地域の保健と福祉、障害と法制度、および、サービス
 - ・プログラムに実行可能でかつ実行を求められていることに、これらのシステムとサービスが影響を及ぼしている 6 つから 8 つの最も重要な事柄。
 - ・その地域の教育制度がこのプログラムにどのように影響しているか。
5. 地域の作業療法の歴史
 - ・プログラムができるのを可能にしたり制限したりする、その地域の作業療法の歴史の側面。

文書2:カリキュラム

文書2はカリキュラムに関する文書で、それは以下のことに触れる。

- ・そのプログラムの哲学と目的
- ・カリキュラムの内容と年次配置（順序）
- ・教育方法
- ・臨床実習
- ・教育施設と資源
- ・教育者

期待される内容の詳細については、「WFOT 作業療法士教育最低基準」の第3部を参照してほしい。さらに、以下の事柄に注意していただきたい。

1. カリキュラムには、卒業生の能力の概要を含めること、卒業生が扱うように教育されている健康と福祉のニーズの種類を説明すること、卒業生ができるように期待されている事柄、卒業生が期待されている働き方、そして、卒業生が提供するよう訓練してきたサービスの種類といったことが期待されている。WFOT 作業療法士教育最低基準の第2部には、卒業生が身につけるよう期待されている必須の知識、技術、態度の詳細な説明がある。カリキュラムの文章はこの情報を非常に凝縮して要約するよう期待されている。
2. 哲学に関する声明文は、作業的存在としての人間、人々が直面している作業上の困難、および作業をどのように可能にするかといったことに関して、そのプログラムの哲学が述べられるように意図されている。そのカリキュラムはまた、教育に関する哲学を含めても良い点に注意してほしい。
3. 目的に関する声明文は、プログラムの背景における作業療法の社会的目的に触れる。それは、その地域における作業療法の目的が、健康と福祉に対する個人、地域、グループ、あるいは、住民のアプローチを求めているかどうかを明らかにすることになろう。
4. 「教育方法」には、学生の学習を測定し評価する文章を含めるように確認していただきたい。
5. 現行の質的改善のシステムに関する概要を追加することも必要かもしれない。それは、これらがカリキュラムの中よりも、その教育施設の方針と手続の中で報告されることが多いからである。関与する個人と集団の役割または責任に関する情報が必要であり、これに様々な質的改善の過程とその頻度に対して誰が責任を持つかに関する情報を付加していただきたい。この過程に外部専門家が関わる場合、専門家がどのように指名されるのかの概要が必要とされる。委員会、理事会、パネル、専門家、その他の集団が関わる場合、その集団がどのように構成され、その役割がどうなっているのかに関する情報が必要とされる。例としては、方針と手続を開発するための過程、カリキュラムの点検過程、試験結果を承認する過程、諮問委員会、施設の監督と調停の過程、ピアレビューの過程、そして、学生のフィードバック手続を検討する集団を含むかもしれない。様々な質的改善のシステムがそのプログラムとの関係でどこにあてはまり、それらが相互にどのように関係しているのかという図式を含めてもよい。

カリキュラム文書が、例えばプログラムあるいは卒業生の能力を導いている哲学のように、最低基準に示されている事柄に触れていない場合は、そのプログラムはカリキュラムに追加して、別の文章または文書を作成する必要がある。

文書3:自己評価

WFOT 最低基準の全てを満たしているプログラムは極めて少ないと予想される。第3の文書は、最低基準に照らしてその長所と同様に短所を確認する機会をプログラムに提供するために、建設的に批判して活性化するという意図を持つものである。

さらに、プログラムには将来最低基準を満たすために何を行いつつあるのかを説明するように要請する。またプログラムには、最低基準からのどのような意図的な変更も明らかにし、その変更が教育上正当なものであることを説明する機会がある。

この文書は、10 ページ (3500 語) 以内とし、参考資料のリストのみを添付する。

自己評価報告には、以下の項目が含まれる。

- ・プログラムが最低基準と比べて優れていると考えられる事柄。
- ・プログラムが最低基準以下であると認められる事柄と、これらの事柄を今後どのように改善するかということ。
- ・プログラムが最低基準を満たすことを妨げている事柄。
- ・プログラムが最低基準を満たすよう援助するために利用できる支援。
- ・プログラムが最低基準と異なることを、教育的に正当な理由があつて意図的に行って いる事柄。
- ・最低基準以下である事柄が、卒業時に作業療法士としての有能性を達成するための学 生の能力にどのように影響を及ぼしているか。

WFOTへの文書の提出

WFOTへの提出は、その新たなプログラムと各国の協会との間の協力の過程である。文書は、添え状に署名をするその国の協会を通して、WFOT に提出される。その地域／国にまだ協会がなければ、WFOTへの申請は、そのプログラムの創設に関わって協力している教育プログラムの国の協会を通して郵送されることがある。文書は電子メールで送信するか、あるいは、4 部のコピーを添えて WFOT 事務局に郵送される。詳細については、WFOT ウェブサイトを参照してほしい。

提出物の準備に援助が必要であれば、その教育プログラムは WFOT 教育研究委員長に連絡をとるようお勧めする。連絡に関する詳細は、<http://www.wfot.org/> の WFOT ウェブサイトを利用できる。

WFOT のプログラム認定手続

この部分では、WFOT 認定を申請する教育プログラムによって、WFOT に提出される文書を検討する方法を説明する。それには、以下の情報が含まれる。

- ・誰が認定手続を実施するのか
- ・プログラム審査委員は何を期待するのか
- ・プログラム審査委員がそのプログラムに求めることのある追加情報はどのようなものか
- ・プログラム審査委員が、そのプログラム、会員資格を求めている協会、そして、WFOT に対して何を報告するのか。

WFOT 会員国協会は、新しく設置されたプログラムを認定し、既設のプログラムを再認定するために、この「WFOT のプログラム認定手続」を用いることを選択することがある。この文書の末尾に示す「各国協会による認定と再認定の手続」と題する部分を参照してほしい。

審査の手続

WFOT プログラム審査委員の役割は、WFOT 最低基準に照らして、当該プログラムを審査することである。このことは、以下の点に照らして、当該プログラムが作業療法士を養成しているかどうかということを意味する。

- ・最低基準を満たしているか、または、上回っているか。
- ・最低基準から逸脱してはいるが、そうすることの正当な教育的理由をあげており、卒業生の能力を損なうことではない。
- ・最低基準を満たしていないが、これらの側面を改善するための行動を効果的に行ってい る。
- ・最低基準を満たしておらず、諸側面に取り組むためにもっと多くのことを行う必要がある。

プログラム審査委員は、これらの役割を遂行するにあたり、以下の事柄を求められる。

- ・偏りのないやり方で、プログラムの文書を検討する。
- ・自分が確信できない側面がある場合、より詳細な情報を求める。
- ・短所が認められた領域には、批判よりも役に立つ提案を提供する。

時間の枠組み

通常の状況では、申請から教育研究委員長が認定に関する勧告を行うまでの最長の期間は 1 年であろう。予想される時間の枠の概要を、ある特定の時間内で終了する課題とともに、以下に示す。

| | |
|-----------------------------|-------|
| 審査委員の指名 | 20 日間 |
| 提出物の審査および追加情報の請求 | 3 ヶ月間 |
| プログラムによる情報の収集と提出 | 20 日間 |
| 提出された情報の検討と最初の原案報告書の記載 | 20 日間 |
| 協会とそのプログラムによる最初の原案報告書の検討と回答 | 2 ヶ月間 |

| | |
|-------------------|------------------|
| 審査委員による最終報告書の記載 | 20 日間 |
| 教育研究委員長による勧告の記載 | 20 日 |
| 勧告に対する理事の投票 | 次の理事会または電子メールによる |
| 協会とそのプログラムへの結果の通知 | 15 日以内 |

報告が紙面でやりとりされる場合には、郵送のための時間が追加されるであろう。

プログラム審査委員

提出物が受理されたら、WFOT 教育研究委員長は 2 名のプログラム審査委員を任命する。プログラム審査委員は、当該教育プログラムが最低基準を満たしているか、満たしていないか、あるいは、それ以上に良好かといった程度を審査することに責任を持つ。その審査に基づき、プログラム審査委員は、その卒業生がその地域の状況の中で、作業療法士として働く能力を有するかどうかに関する判断を行う。

プログラム審査委員は、また、当該プログラムが WFOT によって認定されるべきかどうかの勧告をすることと、教育研究委員長への報告書を起草することに責任を持つ。その報告書は、当該プログラムに関する審査結果を説明し、どのように改善できるかに関する示唆を提供する。

2 名のプログラム審査委員は、自分達が必要とする追加情報、そのプログラムの認定を勧告するか否か、そして、その時点では満たしていない最低基準の諸側面をそのプログラムが満たすためには何を行う必要があるのかといったことに関する合意を得るために一緒に働く必要がある。

ある特定のプログラムを審査するための人選は、以下の事項に基づいて行われる。

- ・作業療法士であり、WFOT の個人会員であること。
- ・可能な場合には、少なくとも 1 人はカリキュラムが書かれている言語を話すか、類似した文化的背景を持つ人であれば、背景に関連する事柄の意味を容易に理解することができる。
- ・経験豊かな教育者であること。
- ・WFOT 最低基準を読んで理解し、検討を行っている間に最低基準の冊子にアクセスできること。
- ・利害関係者ではないこと。すなわち、そのプログラムの長所短所を公平に評価する能力に影響するかもしれないような、個人としての、専門職としての、組織としての、あるいは政治的な忠誠心や、その他の利益や偏見、あるいはそのプログラムに対する賛否といったものを持っていないこと。
- ・多様な作業療法カリキュラムに価値を認める態度を持つこと。

さらに、プログラム審査委員は、提出物の中に報告されている事柄の意味とそれらがカリキュラムのデザインに影響を及ぼしている可能性を迅速に理解することができるよう、作業療法士教育に対する国際的経験または異なる作業療法教育プログラムに接した経験を持っていることが望ましい。

プログラム審査委員は、WFOT 教育研究委員会の委員であってもなくてもよい。経験豊

かなプログラム審査委員が、未経験のプログラム評価者と共に働くことが望ましい。

プログラム審査の手続

ある教育プログラムが WFOT 作業療法士教育最低基準を満たしているか、あるいは、上回っているかどうかを決定するための審査には、何らかの判断が必要である。以下の質問はその判断をする際にプログラム審査委員を導くために開発されたものである。したがって、プログラム審査委員が違っても、どのように提出物を検討するのかということには首尾一貫性がある。

質問は、以下の 3 つの留意点を念頭において開発された。

1. 審査委員は、ユネスコと WHO（第 1 部「WFOT 作業療法士教育最低基準の国際的文脈」を参照のこと）によって確認された方向で取り組まなければならない。
2. 審査委員は、この基準の全ての側面にわたって検討しなければならない。
3. 審査委員は、基準で触れられている細かい点のあら探しをするのではなく、全体として考慮しなければならない。

プログラム審査委員はすべての提出物を読み、次に以下の質問を考慮することが望ましい。最低基準文書の関連する部分は、読者が基準に言及されているすべての部分を確認するのを援助するために、この説明の中でも言及される。

1. そのプログラムは作業療法士を作り出そうとしているのか？
 - ・そのプログラムの哲学は作業に焦点を当てているのか？
 - ・そのプログラムの目的は、作業的ニーズに焦点を当てているのか？
 - ・卒業生は、その文脈の個人、集団、地域、あるいは全住民の作業的ニーズに取り組むことができるか？
2. そのプログラムは実際に役に立つ作業療法士を輩出しているか？
 - ・記述された卒業生の能力と、そのプログラムが取り組もうとしているその地域の健康と福祉のニーズの間には、良好な対応が見られるか？
 - ・そのプログラムが記載されているような卒業生を作り出すであろうと確信できるか？
 - ◇卒業生の能力の全領域が十分に取り組まれているかどうかを考慮する（第 2 部の「不可欠な知識ほか」参照）。
 - ◇その教育プログラムは卒業生の能力を開発するために学生を適切に支援しているかどうかを考慮する（第 3 部）。
 - ◇そのプログラムで用いられる評価法は、能力の発達を支援しているか？
3. そのプログラムはその地域の文脈に関する十分な知識を示してきたか？（第 2 部「地域の状況」）
4. そのプログラムは地域の状況に合致しているか？
5. そのプログラムは、国際的な作業療法の知識を十分に取り入れているか？
6. そのプログラムは以下のことができる卒業生を作り出すであろうと確信できるか？
 - ・情報を保持し、適用できるか？
 - ・情報を探索して、管理できるか？
 - ・質を高めた批判的リーズニング技能を示すことができるか？
 - ・チームワークを推進できるか？

7. そのプログラムは、教育の質の改善のために、十分で効果的な機構を持っているか?
 - ・内部的には、その教育プログラムが時間をかけて改善すると確信できるか（第3部）？
 - ・外部的には、地域の健康ニーズを満たす上で卒業生の有効性に関する情報を収集し、反応しているか？
8. 最低基準からの故意の逸脱に対する説明には説得力があるか？つまり、そのプログラムは依然として、それが説明しているような卒業生を作り出すことができるか？
9. そのプログラムが最低基準を未だに満たしていない場合、計画されている行動は適切か？説明されている行動が効果的でタイムリーであり、その文脈での実践にとって有能な卒業生を作り出していると確信できるか？（第2部「不可欠な知識」）

プログラムが最低基準を実質的に満たしていると確信できる場合、審査委員はただちに認定の勧告と報告書草案を準備し、教育研究委員長にこれらを送ることができる。

上記の質問のいずれかに答えることができない場合、以下の事柄を考える必要がある。

- ・そのプログラムは、その短所を埋め合わせる長所を持っているかどうか。
- ・このプログラムの長所は、最低基準を依然として満たしていない事柄に取り組むことができることを示しているかどうか。
- ・もっと多くの情報が必要かどうか。もしそうならば、どんな情報か？

プログラム審査委員は、そのプログラムが最低基準を実質的に満たしているかどうかを確認するために、さらに詳細な情報が必要なことに同意した場合、自分達が何を最も懸念しているのかを決める必要がある。次に、特定の追加情報あるいは参考資料を提出するようそのプログラムに求めることもある。それに替えて、プログラム審査委員は、特定の懸念に取り組むためにどんな追加情報を提出するか決めるように当該プログラムに求めるかもしれない。

補足情報の請求

プログラム審査委員は、自分達が上記の質問に自信をもって答えることができるようになるために補足情報が必要であると感じた場合、更に情報または説明を求めることができる。

彼らは、例えば、以下の事柄を求めるかもしれない。

- ・提出書類中で言及された文書または文書の一部分のコピー
- ・そのプログラムが実践している何らかのことの例。例えば、そのプログラムが保健サービスと交わした契約書のようなもの
- ・学生が行っていることに関する何らかの例。例えば、そのプログラムが地域の作業的ニーズに関する主たる情報源として明らかにするよう求めた学習課題
- ・提出書類中で言及された事項が意味することと、それが教育プロセスにどのように影響しているのかの説明。例えば、法律の一部
- ・卒業生の特定の能力を開発するために用いられた方略に関する詳細な情報。例えば、作業がどのように健康に影響を及ぼしているのかに関する認識、あるいは、情報を探し、管理する能力。

大部分のプログラムが何らかの補足情報を求められると予想される。

その教育プログラムに関する合意に達すること

提出されたすべての資料を考慮した後、プログラム審査委員は当該教育プログラムがWFOT 作業療法士教育最低基準を満たしているかどうかに関して決定をするために共に作業をする必要がある。この決定は2部から成る。第1は、そのプログラムが**作業療法士**を育成しようとしていること、あるいは、育成していることを示したかということである。プログラム審査委員は、以下の場合にはそのプログラムが作業療法士を育成していないと決定するであろう。

- ・作業的基盤を持っていない（すなわち、卒業生が作業療法士でない）。
- ・作業療法の本質的な領域に関する知識、技術、態度を扱っていない（第2部「不可欠な知識」（すなわち、卒業生は作業療法士の一部でしかない）。
- ・プログラムが非常に断片的である、あるいは、その要素間に著しく一貫性を欠く、又はアンバランスがある（すなわち非常に劣悪な教育プロセス）。
- ・最低基準を満たしているかどうかを決定するには、不十分な情報しか提出されていない。

答えが否の場合には、そのプログラムは認定されることはない。

プログラムが作業療法士を育成するであろうこと、あるいは、育成していることを示した場合は、判断の第2は、そのプログラムが**有能な**作業療法士を育成するかどうかということになる。つまり、そのプログラムが、その地域の状況において、また、国際的に、有能に実践することができる、あるいは、できると思われる作業療法士を卒業させるために、最低基準を十分に満たしているということである。

プログラム審査委員の選択肢は以下の通りである。

- ・教育プログラムの認定の勧告
- ・教育プログラムを認定しないという勧告。

第一次草稿:プログラムへの勧告と WFOT 認定

プログラム審査委員は、以下の事柄に関する彼らの合意を概説した報告書を準備する。

- ・賞賛に値すると考える面
- ・WFOT 最低基準と関連づけた改善のための勧告
- ・これらの勧告をすることの正当な理由
- ・そのプログラムの認定または非認定に関する WFOT 教育研究委員長に対する彼らの勧告。

この文書の末尾の報告書様式を参照してほしい。

この草案は、当該国の協会と当該教育プログラムがこの草案に返答するために協力するようにという期待を込めて、両者に送付される。手続のこの段階は、事実の誤認や不正確な解釈を修正する機会を提供するものである。その教育プログラムまたは当該国協会からの返答は、プログラム審査委員に返送される。

最終報告:プログラムの認定報告と WFOT の意見

プログラム審査委員はその返答を考慮に入れて最終報告を準備する。その報告書はWFOT 教育研究委員長に送付される。委員長は報告書を点検し、認定を勧告すべきかどうかに関する最終決定をする責任がある。

認定が勧告された場合、WFOT 教育研究委員長は、次の会議、または電子メールでの投票によって検討するために、WFOT 理事会に最終勧告書を提出する責任がある。また、委員長は最終報告をプログラム審査委員から受け取ったこと、作成された勧告書の性質[訳注：可否]、およびその勧告が投票のために WFOT 理事会に提出される時期を、当該協会と教育プログラムに通知するために添付書類を書く責任がある。

その教育プログラムが非認定の勧告となった場合、WFOT 教育研究委員長はその決定を当該協会と教育プログラムに通知する責任がある。

WFOT 事務局は、当該協会と教育プログラムに投票の結果を通知する責任がある。

再提出と不服申請の手続

その教育プログラムが認定されなかった場合、通常は「訳注：認定されなかった部分の」修正を経た上で後日認定を求めて新たに提出書類を準備することになる。

しかし、当該の協会がその認定の決定について不服申請することを希望した場合、再考慮の申請を WFOT 事務局長に提出することができる。この申請は、当該協会がその決定が誤りであると考える理由を説明しなければならない。事務局長は、その申請書の受領後 2 カ月以内に、その評価に関する全ての文書の再調査を調整することになる。再調査は、最初の検討に関与していない第 3 のプログラム審査委員が関わり、独自に当該教育プログラムと協会から提出された文書を検討することになる。この検討者は前のプログラム評価者の報告書を手にすることはない。新たな報告書が受領されたなら、WFOT 理事会は再考慮のために全ての報告書と要請を検討し、その認定決定を支持するべきか、覆すべきかを決定する。

WFOT 養成施設リストへの登録

認定の決定は、WFOT 事務局に報告される。事務局は WFOT 記録の教育プログラム（養成施設リスト）に掲載することに責任を持つ。データベースに記入される認定の年は、教育研究委員長が勧告書を書いた年であって、WFOT 理事会が勧告を審査した年ではない（これらが異なる場合）。

他のプログラムの再認定と認定

ある国の最初の教育プログラムが審査され、WFOT によって認定された以降は、その国における他の教育プログラムの審査と認定、及びその国のすべての教育プログラムの再認定は、会員となっているその国の協会の責任である。

当該国の協会による認定と再認定の手続

最初のプログラムが認定され、WFOT の会員資格が承認されたならば、会員国協会は以下のことに責任を負う。

- ・WFOT 最低基準に照らしての新たなプログラムの WFOT 認定
- ・WFOT 最低基準に照らしての既設教育プログラムの再認定
- ・WFOT 事務局への認定と再認定の結果の報告

WFOT が最新の記録を維持するよう支援するために、協会は、WFOT 事務局に、毎年、認定または再認定されたすべての教育プログラムの報告書を提出するよう求められる。詳細な連絡方法については、www.wfot.or を参照されたい。

WFOT は、各国の協会に以下の事柄を期待している。

- ・認定と再認定の手続に関する説明を入手可能にしておくこと。
- ・認定と再認定の手続における不服申請の処理経過を含めること
- ・経験豊かな教育者を認定と再認定を実施するプログラム審査委員として任命すること。
審査委員は、その国の協会の理事や評議員のメンバーである場合もない場合も、あるいは WFOT の個人会員であることもあるが、WFOT 作業療法士教育最低基準にアクセスする必要がある。

もし教育プログラムが当該国における認定、再認定、あるいは、不服申請に疑問や懸念を抱く場合には、WFOT 教育研究委員長に連絡することもある。委員長は問題点を明らかにして解決を支援するために、当該国協会に連絡するかもしれない。WFOT 理事会はそのような活動に関する情報を把握しておく。

WFOT 認定手続の利用

各国の協会は、新たな教育プログラムあるいは既設の教育プログラムを認定するときに、この文書に説明されている手続を用いることを選択するかもしれない。しかし、この WFOT 認定手続を用いるかどうかは任意である。協会は独自の手続を開発して、教育プログラムが WFOT 最低基準を満たしているかどうかを評価することができる。協会はまた、他の WFOT 会員国と協力すること、あるいは、認定を完了するために、地区のグループで、あるいは他の団体と協力することを選択してもよい。

認定の過程は図 2 に描かれており、以下の事柄を含む。

1. 準備
 - ・教育プログラムは準備を支援してもらうために、他の教育プログラムと協力することがある。
 - ・教育プログラムは提出物を作成するために、関連する情報と文書を収集する。
2. 提出書類（WFOT 認定のための提出書類の準備にあたっては「提出書類の内容」を参考のこと）
 - ・その地域の背景となる状況の説明（協会が独自の手続を工夫してもよい）
 - ・卒業生の能力を含む当該プログラムのカリキュラム文書、及びそれには含まれていな

いが、WFOT 最低基準に記載された領域を扱うために必要な補足文書.

- ・WFOT 作業療法士教育最低基準からの逸脱がある場合、それを明確にし、説明するための自己評価報告書.

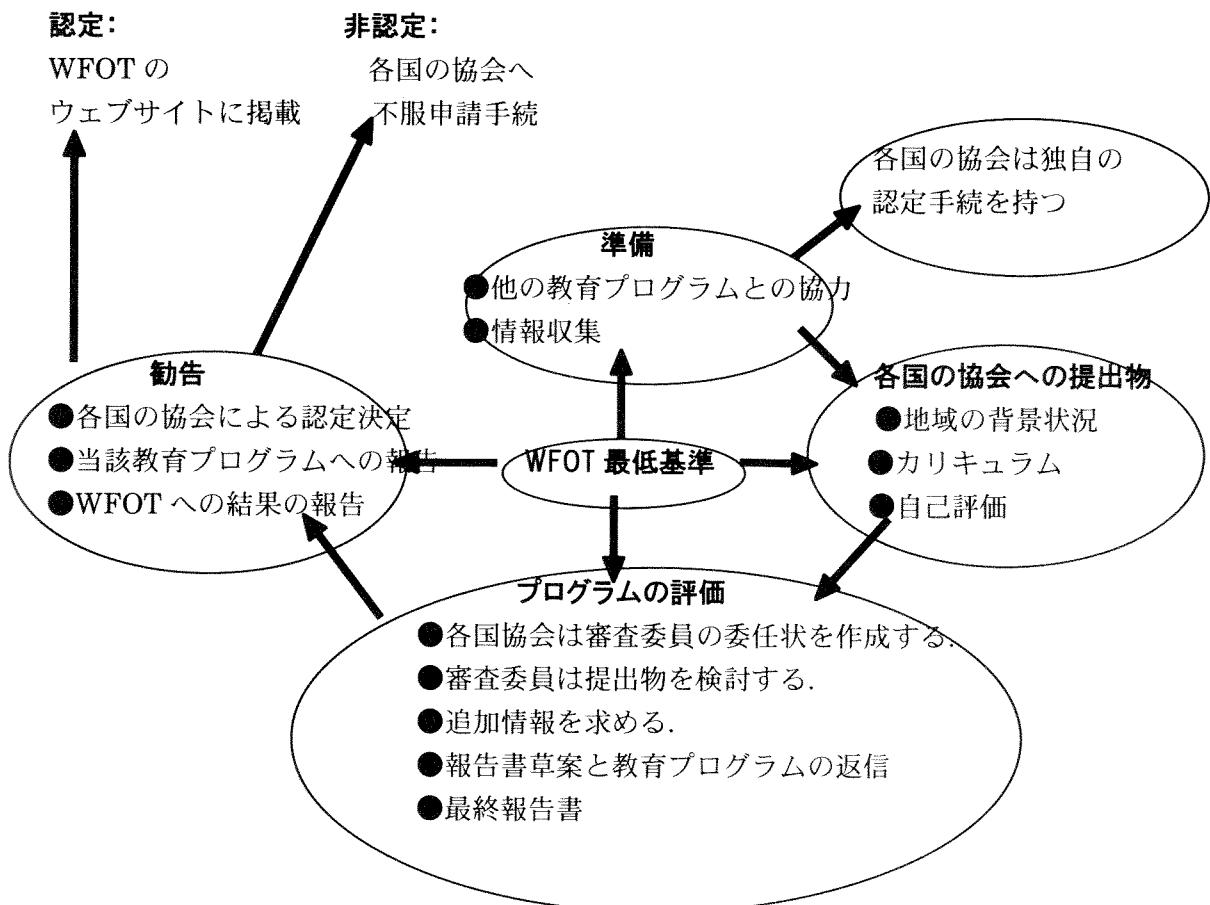
3. プログラム評価（この文書の最初の部分で説明されている）

- ・協会は審査委員のチームを指名する.
- ・プログラム審査委員は WFOT 最低基準に照らして評価する.
- ・プログラム審査委員は当該プログラムに対して、より詳しい情報の提出を求めることがある。あるいは、訪問、面接、または報告を求めることがある。
- ・プログラム審査委員は改善のための勧告を含めた報告書の草案を作成する.
- ・報告書の草案は、事実の誤認および不正確な解釈を訂正するために、当該教育プログラムに伝えられる.
- ・審査委員は、認定に関する最終報告と勧告を準備し、それを協会に提出する.

4. 報告と勧告

- ・各国協会によってなされる認定の決定
- ・協会は、改善のための勧告を含む最終報告を準備し、当該教育プログラムに送付する.
- ・協会は、WFOT ウェブサイト (www.wfot.org) 上への当該プログラムの情報の追加、更新、あるいは削除に関して、WFOT へ報告する.

図2:WFOT 認定過程を用いる各国の協会



再認定の頻度

WFOTは、プログラムを5年または7年ごとに再認定するように求めている。あるプログラムに5年または7年のいずれかの期間を適用するかは、そのプログラムの長さに基づき、各国協会によって決定されることになる。

- ・卒業生が3年のプログラムを修了した後に、実践をすることに適格であるとされる場合には、通常5年毎の再認定の期間が適用されるであろう。
- ・プログラムが一般に4年間であり、かつ通常カリキュラム検討が7年毎に行われる場合には、7年毎の再認定期間が標準として適用されるであろう。

例えば、資格証書〔訳注：日本では専門士または高度専門士〕から学士号へといったように、作業療法士となる資格付与を格上げするように計画している教育プログラムは、5年毎に再認定を受けなければならない。例えば、合衆国、カナダ、オーストラリアといった国々でなされているように、適切な学部卒の資格の上に築き上げられる修士養成プログラムレベルの資格付与も、5年または7年毎の再認定を必要とする。

協会とプログラム間のコミュニケーション

認定や再認定をするプログラムを支援するために、WFOT会員国の協会は、全ての学校が回答するように期待されるような「地域の背景状況」に関する事項の「原版」となるリストを開発してもよい。そのようなリストには、政府の健康目標や優先順位、特定の法律、その国で採用された倫理要綱などを含めてもよい。その場合、プログラムはそのリスト上の事項にどのように回答するかを確認するだけでよく、地域の背景状況にもっと集中して報告できるであろう。

認定あるいは再認定を受けた後にプログラムが大幅に変更された場合、教育プログラムは協会にそのことを伝えるように勧める。

WFOT プログラム審査報告書様式
原案報告書／最終報告書(いずれかを○で囲む)

最初に文書を受領した日付け

作業療法士協会名 _____

担当者 _____

住 所 _____

e メールアドレス _____

教育プログラム名 _____

設立機関 _____

担当者 _____

住 所 _____

e メールアドレス _____

協力した教育プログラム名

設立機関 _____

担当者 _____

住 所 _____

e メールアドレス _____

審査委員 _____

住 所 _____

e メールアドレス _____

審査委員 _____

住 所 _____

e メールアドレス _____

審査委員への指示：

「世界作業療法士連盟教育プログラム認定の手続」の中の「プログラム審査手続」を参考して下さい。この形式を完成するためには、質問 1-9 に回答を記入して下さい。

これが原案報告書か最終報告書かを、この様式の最上段にある選択肢のうちの 1 つを囲むことによって、示して下さい。

このプログラムは、作業療法士を作り出そうとしていますか？（いずれかを○で囲む）
はい／いいえ

最低基準を満たしている、あるいは、最低基準よりも優れないと賞賛に値するこのプログラムの側面

これらが最低基準と相違していても受け入れられる点はどのようなことですか？（それらが受け入れられた理由を説明して下さい。）

このプログラムが最低基準を満たしていない点について、それらの懸念に効果的に取り組むであろうことを行っていますか、あるいは、行う計画を立てていますか？

そのプログラムが最低基準を満たしていない点はどんなことですか？これらの事柄は、卒業生の能力（有能性）にどんな影響を及ぼすでしょうか？

WFOT 最低基準に関連する改善のための勧告（それらの勧告をする理由を含むこと）.

総合的な勧告：

- この教育プログラムを認定するよう勧告する
- この教育プログラムを非認定とするよう勧告する

審査委員の宣誓

WFOT プログラム審査委員として私の役割を遂行するにあたり、私は以下の事柄を行いました。

- ・私は公平な方法でこのプログラムの文書を検討しました。
- ・私は、このプログラムのどのような側面であれ確信できなかった時には、詳細な情報を求めました。
- ・私が改善のために役に立つと思う提案を示しました。

私はこの報告書に示された勧告に同意します。

審査委員名_____
日付：_____

WFOT プログラム審査委員として私の役割を遂行するにあたり、私は以下の事柄を行いました。

- ・私は公平な方法でこのプログラムの文書を検討しました。
- ・私は、このプログラムのどのような側面であれ確信できなかった時には、詳細な情報を求めました。
- ・私が改善のために役に立つと思う提案を示しました。

私はこの報告書に示された勧告に同意します。

審査委員名_____
日付：_____

用語集

用語集は、この文書で用いられる用語の明確に説明するために作成された。

認定: 作業療法士教育のためのプログラムが WFOT 最低基準を満たすか、上回ることをさす。いかなる国においても、その最初の認定は WFOT によってなされる。それ以降の認定は、その国の作業療法士協会が責任を持つ。

認定手続: 教育プログラムが求められた文書を準備することから始まり、WFOT 理事会（または WFOT 会員国）を通じて、ある教育プログラムが WFOT 最低基準を満たしているとして認定または再認定されるかどうかを決定することに至る一連の過程。

能力[有能性]: 求められたことを安全で効果的な方法で遂行することができるることを意味する。

カリキュラム: ある教育プログラムの目的、哲学、学習の内容と順序を説明する文書。教育上の哲学、評価方法、成果（時には学習成果あるいは能力と表現されることもある）も含まれる。この文書は、その教育プログラムの 1 年次から卒業までの全てを網羅し、学生がそのプログラムを通して修了するのに要する年限と取得する単位を明らかにする。

教育研究委員会: 世界作業療法士連盟の現在の活動領域の 1 つ。教育研究委員長は教育プログラムを審査する人々を任命することに責任を持つ。

教育プログラム: 作業療法士を教育するためのプログラム。

プログラム審査委員: 教育プログラムが提出した文書を検討し、そのプログラムが WFOT 最低基準を満たしているかどうかを決定するために、WFOT によって指名された人。

再認定: ある教育プログラムが WFOT 作業療法士教育最低基準を満たし続けているかチェックすることを意味する。各国の作業療法協会は、継続中の再認定に責任を持つ。

自己評価報告書: 当該教育プログラムが、WFOT 作業療法士教育最低基準に照らして自分自身を評価する報告書。この報告書はそのプログラムの長所と短所を率直に反映するものと期待される。自己評価は困難な過程であるため、プログラムはその評価の実施にあたって支援を仰ぐため、別のプログラムから教育者を招くことを強く勧める。

WFOT 養成施設リスト: WFOT 作業療法士教育最低基準を満たしたものと認定された全ての教育プログラムのリスト。

付録1：
参考文献

- Brintnell, E. S., Madill H. M., & Tjandrakasuma, H. (1995). International development through educational linkages I: A guide to a successful outcome. *Occupational Therapy International*, 2, 79-87.
- Madill, H. M., Brintnell, E. S., Nelson, C. L. A., & Tjandrakasuma, H. (1995). International development through education linkages II: Implementing World Federation of Occupational Therapists Educational Standards. *Occupational Therapy International*, 2, 88-97.

付録2：

本文書の最初の草稿に対してフィードバックを寄せた協会と教育プログラムの一覧

Adele P. Diday, Nicolas Kiihne and Kathrin Lutz-Marker, Swiss Association of Occupational Therapists
Anu Soderstrom and Ulla-Maija Tormala, Finish Association of Occupational Therapists Association of Occupational Therapists of Ireland
Barbara Dehnhardt, former WFOT delegate, Germany
Bea van Bodegom, Madeleine Corstens Mignot and Frouck de Boer. Dutch Occupational Therapy Association
Christa Meyer and Judith van der Veen, Occupational Therapy School, Moshi. Tanzania
Cristina H. Bolafios, Mexico
Einar Steen Jakobsen and Daniel Lee, Rogaland College, Norway
Elizabeth Townsend, Daihousie University
European Network of Occupational Therapy in Higher Education
Japanese Association of Occupational Therapists
Julie Piergrossi, WFOT delegate, Italy
Jurgen Ungerer, German Occupational Therapy Association
Karen Winding and Inger Langdal, Danish Occupational Therapy Schools
Laura Van Iterson, France
Lena Haglund and Inga-Britt Lindstrom, Swedish Association of Occupational Therapists
Lene Bakke and Sigrun Grayston Isachsen, Hogskolen I Bergen, Norway
Mrs M. Prabhavathy, Chennai Branch of the Association of Indian Occupational Therapists
Sandra Hobson, The University of Western Ontario, Canada
Sue Baptiste, McMaster University, Canada
Sylvia Langlois, University Of Toronto, Canada
Sylvia Rodger, University Of Queensland, Australia

新たな作業療法士教育プログラム 設置のための勧告

*ADVICE FOR THE ESTABLISHMENT OF
A NEW PROGRAMME FOR THE
EDUCATION OF
OCCUPATIONAL THERAPISTS*

クレア・ホッキング(Clare Hocking)、ニュージーランド代表
ニルス・エリク・ネス(Nils Erik Ness)、ノルウェー第1代表代理
2004

世界作業療法士連盟
電子メール : wfot@multiline.com.au
ウェブサイト : <http://www.wfot.org/>

クレア・ホッキング
ニュージーランド作業療法士協会代表
オーカランド工科大学作業療法学科主任講師

ニルス・エリク・ネス
ノルウェー作業療法士協会第1代表代理
Sør Trøndelag 大学准教授

目 次

WFOT 作業療法士教育の新プログラム設置のための勧告

地域のニーズと背景の概観

提携とパートナー

政府の省庁の承認

全国あるいは地域の障害者団体

大学、高等教育機関、教育省からの支援

他の作業療法士教育プログラムとの協力

地域の作業療法士および関連専門職との連携

臨床実習場面との提携

当該国または他国の作業療法士協会との提携

諮問委員会

教員とプログラムのスタッフ

プログラムの学術的リーダー

教員

カリキュラムの開発

養成期間

科目／構成単位（モジュール）の履修順序と配列

時間割の構成に関する提案

教育施設と資源

設備

図書館、コンピュータと I T

学生数

プログラムのさらなる発展

プログラムの評価

文書

新卒作業療法士の配置

作業療法の発展

世界作業療法士連盟 作業療法士教育の新プログラム設置のための勧告

作業療法士を教育するために新たにプログラムを開始するには、多くの準備を必要とする。以下に示すのは、この準備を導くためのいくつかの見解と勧告である。この勧告は、WFOT 作業療法士の教育最低基準(2002年:以下、『最低基準』)と WFOT きょう教育プログラムの認定手続(2004:以下、『認定手続』)を補うものであり、また、それらと一貫性を有するものである。

地域のニーズと背景の概要

『最低基準』に述べられているように、地域の健康と福祉のニーズと、作業療法士がそれらのニーズを満たすための方策を十分に理解することは、カリキュラムを計画するための出発点である。同様に、健康と福祉のニーズを明確に把握することと、作業療法士がそうしたニーズに応えるために何を提供したら良いのか理解することは、新たな場や国に作業療法を設立しようと推進するときには重要である。市民、組織、資金提供体と行政当局は、この専門職自体よりも、その対象となるグループや保健上のニーズに大きな関心を抱いている。国の保健と福祉のニーズ、標的とするグループ、および優先順位に関する公文書、調査、あるいは計画が役に立つであろう。『提出物の内容』(Components of a Submission)と題されたセクションにある、教育プログラム認定のガイドラインを参照のこと。

提携とパートナー

いくつかの重要な提携について説明する。それぞれの相対的な重要性は状況によって決まるであろう。

政府の省庁の承認

新たな保健関連専門職がある地域または国で始まろうとする場合、いかなる教育プログラムの提案も、当該省庁と何らかの形で連絡を取ることが賢明であろう。省庁は自分達の助言や指導に沿って相談に乗るかもしれない、また作業療法士が、国の保健と福祉のニーズに応えるために何を提供できるのかについて、情報を提供されるかもしれない。例えば、政府の大蔵や高官に助言を求めてそのプログラム設立の計画を提示することは、良い考えであろう。あるプログラムを開始するために保健当局の支持を得ることも、新たな専門職の認可と同程度に重要である。承認の公的文書は、後に財政援助や資金を申請する際にも役立つものとなろう。

全国あるいは地域の障害者団体

障害のある人々と関係のあることは、何であれ当事者の関与なしになされなければならないことが多くの国で認識されている。全国または地域の障害者団体は、ある教育プログラムを設置する過程のパートナーであると同時に、時には作業療法士のニーズを確立する上でも影響力を持つことがある。

大学、高等教育機関、教育省からの支持

ある作業療法教育プログラムは別個の教育部門として運営しているものの、そのプログラムが大学または高等教育機関内に設置されること、そして、卒業生が学位または専門資格を授与されることが強く勧められる。

高等教育機関は、学問的基準の設定を支援し、教育者の交換の可能性を作り出し、そのプログラムに対して科学的基準を支援し、図書館や IT 資源へのアクセスを提供する。国の作業療法士協会は当該プログラムの基準を保護するが、質の改善を支援するために大学基準を持つことはそのプログラムにとって利益になろう。財政援助を求める前に、プログラムを開始しようとしている大学から同意書を得ることは、重要であるかもしれない。

世界作業療法士連盟 作業療法士教育の新プログラム設置のための勧告

作業療法士を教育するために新たにプログラムを開始するには、多くの準備を必要とする。以下に示すのは、この準備を導くためのいくつかの見解と勧告である。この勧告は、WFOT 作業療法士の教育最低基準(2002年:以下、『最低基準』)と WFOT きょう教育プログラムの認定手続(2004:以下、『認定手続』)を補うものであり、また、それらと一貫性を有するものである。

地域のニーズと背景の概要

『最低基準』に述べられているように、地域の健康と福祉のニーズと、作業療法士がそれらのニーズを満たすための方策を十分に理解することは、カリキュラムを計画するための出発点である。同様に、健康と福祉のニーズを明確に把握することと、作業療法士がそうしたニーズに応えるために何を提供したら良いのか理解することは、新たな場や国に作業療法を設立しようと推進するときには重要である。市民、組織、資金提供体と行政当局は、この専門職自体よりも、その対象となるグループや保健上のニーズに大きな関心を抱いている。国の保健と福祉のニーズ、標的とするグループ、および優先順位に関する公文書、調査、あるいは計画が役に立つであろう。『提出物の内容』(Components of a Submission)と題されたセクションにある、教育プログラム認定のガイドラインを参照のこと。

提携とパートナー

いくつかの重要な提携について説明する。それぞれの相対的な重要性は状況によって決まるであろう。

政府の省庁の承認

新たな保健関連専門職がある地域または国で始まろうとする場合、いかなる教育プログラムの提案も、当該省庁と何らかの形で連絡を取ることが賢明であろう。省庁は自分達の助言や指導に沿って相談に乗るかもしれない、また作業療法士が、国の保健と福祉のニーズに応えるために何を提供できるのかについて、情報を提供されるかもしれない。例えば、政府の大蔵や高官に助言を求めてそのプログラム設立の計画を提示することは、良い考えであろう。あるプログラムを開始するために保健当局の支持を得ることも、新たな専門職の認可と同程度に重要である。承認の公的文書は、後に財政援助や資金を申請する際にも役立つものとなろう。

全国あるいは地域の障害者団体

障害のある人々と関係のあることは、何であれ当事者の関与なしになされなければならないことが多くの国で認識されている。全国または地域の障害者団体は、ある教育プログラムを設置する過程のパートナーであると同時に、時には作業療法士のニーズを確立する上でも影響力を持つことがある。

大学、高等教育機関、教育省からの支持

ある作業療法教育プログラムは別個の教育部門として運営しているものの、そのプログラムが大学または高等教育機関内に設置されること、そして、卒業生が学位または専門資格を授与されることが強く勧められる。

高等教育機関は、学問的基準の設定を支援し、教育者の交換の可能性を作り出し、そのプログラムに対して科学的基準を支援し、図書館や IT 資源へのアクセスを提供する。国の作業療法士協会は当該プログラムの基準を保護するが、質の改善を支援するために大学基準を持つことはそのプログラムにとって利益になろう。財政援助を求める前に、プログラムを開始しようとしている大学から同意書を得ることは、重要であるかもしれない。

養成施設を病院の中で開始する場合は、他の保健専門職や社会的専門職と提携する大規模な総合病院であることが賢明であろう。これは、学生に対する理論的および実践的教育の施設入手する可能性を確実にするであろう。養成施設が精神病院のような特別な施設で開始される場合、その施設内で提供されるサービスだけでなく、施設外でのサービスも体験して、多様なクライエントに対する十分な知識や臨床実習を追加するように追求することが重要である。

そのプログラムの修了に際して学生が学位あるいは専門資格を受け取ることは本質的なことである。これによってその専門職独自の認定だけでなく、関連する専門職や市民から専門職であると確実に認められるようになるであろう。この資格は、有資格のセラピストと補助のヘルパーの差異を公式的に確立するために役立つ。これを達成するために、プログラムはそうした専門資格又は学位を授与する機関の後援のもとに確立される必要があろう。

さらに、その地域のソーシャル・ワーカー、教師、理学療法士といった同等の資格を認定、登録、又は規制するために用いられる手続に関して地域的に調査することが望ましい。規制の目的は、作業療法を行う資格のない者が作業療法士であると主張することを防ぐことである。

他の作業療法士教育プログラムとの協力

作業療法教育の急速な発展がみられ、また、世界中の作業療法教育プログラムの間ではネットワークがますます発展している。このネットワークは、学生、教育者、知識、そして研究の相互の移動性を促進している。この種のネットワークと提携は両者の利益となっており、これらの提携を確立することは当然のことながら高レベルの関与をもたらす。開始したばかりのプログラムにとって、既に設置され、WFOTに認定された学校との同盟は援助となるであろう。提供される支援には、カリキュラム、便覧、教育者などが含まれるであろう。適切な提携者を探し出すことは、プログラムを始める上で緊急のことである。全てのWFOT認定校は、WFOTのウェブサイト(www.wfot.org)に掲載されている。支援が長期間継続すること、及び提携先が新設校の地域的背景を理解しているか確認することは重要である。したがって、長期間にわたって協力するための契約上の合意事項にサインする複数の提携先を持つのが望ましい。

地域の作業療法士および関連専門職との連携

教育プログラムを設置することに取り組んでいる作業療法士に加えて、その地域に住んでいる作業療法士は密接な協力者と提携者となりうるので、非常勤講師、臨床実習のスーパーバイザー、役割モデル、あるいは、そのプログラムの教育者になる可能性がある。地域のセラピスト達に、そのプログラムが教育者としての役割を担う新しい機会を提供する場になり、また、生涯学習の資源を提供するセンターであると説得すれば、支援を提供しようという意志が強くなるであろう。

臨床実習場面との提携

指導やスーパービジョンを受けながら、様々なクライエントのグループ、年齢のグループ、及び様々なサービスのシステムで働く経験を積むことは、作業療法士となる準備の中では不可欠な部分である。教育プログラムは、学生が『最低基準』の第3部「臨床実習」で示されている領域を代表するクライアントやサービスで確実に実践を経験するために、いくつかの臨床実習場面と提携することが必要であろう。作業療法のスーパーバイザーになる可能性のある人がほとんどいなければ、その教育プログラムの教員による指導だけではなく、臨床実習の連絡先を他の専門職に依頼する必要があろう。

当該国や他国の作業療法協会との連携

教育プログラムのWFOT認定申請は、その国の協会から郵送される(WFOTウェブサイト『認定手続』の文書参照。www.wfot.orgまたはWFOT事務局[wfot@multiline.com.au]から入手可能)。したがって、新設校を開設するために働いている人々は、その国の協会と緊密に協力しながら仕事をするよう勧めたい。その国や地域に協会がない場合には、WFOTへの申請書は、協力している教育プログラムの所属する協会のような別のWFOT会員国協会、または資金提供によって支援してきた組織を通して提出されることがある。

諮問委員会

諮問委員会は、教育プログラムを計画・設置する上で、大きな支援を果たす可能性がある。この

委員会のメンバーは専門知識と関心に基づいて選ばれなければならないが、その影響力も考慮すべきである。委員として次のようなメンバーを提案したい：

- ・その地域の作業療法士またはその国の作業療法協会
- ・障害者団体の代表者
- ・大学の教育者、管理者、代表者
- ・社会学者、人類学者、ソーシャル・ワーカーなど
- ・医師、看護師、理学療法士、心理士、または他の保健関連専門職
- ・リハビリテーションまたは障害に関する消費者団体またはボランティア組織の関係者（例えば、身体障害者福祉協会、精神保健に関する組織、障害者インターナショナル、児童救済団体など）。
- ・保健と福祉に関する労働者の雇用に関わる人（例えば、産業、商業、厚生労働局の人）。
- ・同種の教育プログラムや資金提供団体などの代表。
- ・世界保健機構のその地域の代表。

教員とプログラムのスタッフ

『最低基準』第3部（教育者）を参照のこと。

プログラムの学術的リーダー

計画過程の早い時期に、作業療法士教育プログラムの責任者として有資格で経験豊かな作業療法の教育者を雇用することが重要である。学術的リーダーは、通常 WFOT によって認定された作業療法教育プログラムを卒業している。理想的には、この人はその教育プログラムが提供するよりも上級の資格を有するか、その資格を得る途中であることが望ましい。

プログラムをほんの少数の学生だけで開始する場合、学術的リーダーは不可避的に、理論と治療技術の大部分を自分で教えることを求められることになろう。したがって、その長は教育と管理上の経験と同様に、十分な臨床経験を持つことが望ましい。学術的リーダーは、設置した教育基準と質の改善を維持する権限を持たなければならない。最も望ましいのは、この作業療法士が同じ地域の出身であることである。海外からの作業療法士を最初に指名しなければならない場合、その人はその地域の文化を理解し、その国の言語を話せることが重要である。最低限でも、学術的リーダーは学生や同僚と共に通の言葉を持つ必要がある。学術的リーダーは、経験豊かで柔軟性があり、教員の仕事を指導することができなければならない。その人は、常勤を条件として指名されなければならない。

教員

その教育プログラムの卒業生は、作業療法士として働き、さらに将来の教育者、臨床のスーパーバイザー、研究者の土台を提供することによって、その地域での専門職の連続性、成長、そして発展を確実にする。したがって、その教育プログラムで得られる教育上の資格水準は、卒業生が上級の研究に取り組めるようなレベルになければならない。

勧告にある 90 週のプログラムよりも短期間で作業療法士を教育することが必要で、それが現実的な場合もある。この目的は、作業療法士の教育プログラムが設置される場所のクライエントのニーズにとにかく対応すること、又は、新しいプログラムの発展を支援するためかもしれない。例えば医学、社会科学、特定の技術、あるいは他の形の高等教育等で、関連する資格をすでに得ている成熟した学生を選択すれば、養成期間の短縮が可能であろう。

カリキュラムの開発

『最低基準』第3部、および『認定手続き』の文書中にある提出物の構成要素と題する部分を参照のこと。

養成期間

学士または専門資格に関する文書で述べられた最低の教育期間は3年間であるが、作業療法士教育プログラムの多くは4年間である。プログラム全体の期間を決定する場合、関連する要素を考慮する必要があるが、それは場所によって異なる以下のような条件を含んでいる：気候とそれが出勤日に及ぼす影響、望ましいと考えられている休暇期間、国の休日と宗教上の休日、高等教育と健康に関する政策と法律などである。

考慮すべき重要な要因は、そのプログラムに入ってくる学生の成熟レベルと教育的なレディネスである。これは、知識を吸収し、消化し、用いる学生の能力や、学習が達成される速度に明確に関連している。

そのプログラムに備えて学生の教育的準備能力を高めるために、標準的な中等教育を修了した後に特定の学習経験を必須として科することは賢明であろう。このプログラムの目的は、志願する学生の範囲を拡張し、成熟させることであろう。これは以下のようないくつかの方法を取るかもしれない。

- ・将来の作業療法教育と直接関連する教科目の教育。
- ・無資格の「助手」として病院で働くこと。
- ・地域で働くこと。

科目/構成単位(モジュール)の履修順序と配置

作業療法のカリキュラムを開発する上での困難の1つは、構成単位又は教科目の配置を組立てる事である。カリキュラムを従来の科目主体のプログラムにすべきか、あるいは統合された構成単位(モジュール)に分割するかの決定は教育プログラムあるいは大学次第であり、焦点は当然卒業生の能力に合わされているはずである(『最低基準』第2部必須知識を参照のこと)。専門科目／構成単位(モジュール)の配列と内容は、プログラムの哲学と目的に従って慎重に設計されなければならない。また、特定のコース間の関係が示されなければならない。その地域の背景状況において効果を発揮する可能性の高い事柄を明らかにするためには、他のWFOT認定プログラムのカリキュラムやコースの概要を参考すれば大いに役に立つであろう。

時間割の構成に関する提案

作業療法士の教育と他の保健関連職の教育と同じ施設で提供する場合、共通する科目と一緒に教えることは一般的であり、実際的である。しかし、2つ以上のグループと一緒に教育する場合、科目を導入する際に重点・教材の配列・訓練のレベルにおいて妥協の要素が存在することが認識されている。プログラムの管理者は、すべてに共通する講義でいくつかのグループと一緒に教えるという強い誘惑に駆られやすいために、警告を発しておくべきであろう。共通する基本的講義を実施し、次にチュートリアルや実験のためにクラスを分けることにより、妥協のレベルを低減することができる。これは、各々のグループが卒業に必要な能力の強調点を拡大することをもたらす。

教育施設と資源

『最低基準』第3部、教育施設と資源を参照のこと。

収容能力

一定の基本的必要条件は、ある時点の在籍学生数によって増設する必要があるかもしれない。そのプログラムが他の保健医療専門職と一緒に設置される場合、図書館施設、実験室や教室、視聴覚教材を共有することは役に立つ。従来通りの抗議のための空間を準備するとともに、セミナー、小グループでの討議、実際のデモンストレーションのための部屋も必要である。

作業療法教育プログラムのために必要とされる最低限の施設は、以下のようなものであろう。

- ・プログラムの主事または学科長と秘書のための執務室（これには成績記録を保管するスペースを含む）及び学生の学業に関するカウンセリングのための十分な空間
- ・教員や講師のための研究室
- ・講義室と実験室／教室（十分な器材、収納場所と掲示板を備えていること）
- ・日常生活活動、職業関連活動、創造的活動、およびスプリント製作などの実践的活動を教えるための部屋へのアクセス
- スポーツの治療的利用や車椅子活動を教えるためのスポーツグランドや体育館といったオープンスペースへのアクセス
- ・VTR、パワーポイント、OHPなどの視聴覚器材やテクノロジーへのアクセス

図書館、コンピュータ、IT（情報技術）

プログラムが確実に国際的観点を取り入れ、科学的に最新のものにするためには、設備には以下のものが含まれる必要がある。

- ・図書館へのアクセス：国際的な教科書や、作業療法／作業科学の科学的ジャーナルを含む
- ・コンピュータ、情報テクノロジー、インターネット・アクセスへのアクセス

学生数

通常、学内実習では教員1名あたりの学生数は15人を上回るべきではない。理論の教育に関しては、学生数は教授法や提示される教材によって異なるであろう。

プログラムのさらなる発展

プログラム評価

プログラムが正式に開校した時点で、卒業生とそのプログラムの適切性を定期的に評価するために、定められた実施されなければならない。この評価の一部として学生、その就職先、クライエントのグループ、臨床実習のスーパーバイザーからのフィードバックを含むべきである。

WFOT再認定は5年または7年ごとになされるだけなので、すでに確立した教育プログラムの作業療法教育者から頻繁に支援と助言を受けると大いに役に立つであろう。

文書

記録は各学生のために保管されるべきであり、それには学業と臨床実習の進捗状況を含めなければならない。各々の学科においてそのプログラム／モジュールの記録を保管することは重要である。

これによって、その後プログラムの質を改善するためのイニシアティブを支援し、また、過去の経験に基づいて築き上げることが可能になる。

新卒作業療法士の配置

教員は、新卒者を最も適した作業療法の領域の仕事に導く必要があるだろう。つまり、非政府組織(NGO)や他の職場に卒業生を送り込むことである。卒業生が出身校と接触を保ち、生涯学習の機会にアクセスするならば、それは利益になる。プログラムにとって、これは将来の教員や臨床実習指導者を確保するための重要な投資である。

作業療法の発展

研究と学術的活動を行うような風土を設立することは、作業療法にとっての優先事項である。したがって、教員と作業療法士は、修士や博士の過程を修得し、研究その他のプロジェクトに関わるよう奨励されるべきである。学生も教育者も、ジャーナル、国際的提携者、インターネットを通して、新しい知識を求めるような風土を持つべきであろう。